

(別表 4)

看護学科 教育課程

1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
科学的思考の基盤									
生物学	30						1	30	
教育学	15						1	15	
情報科学	30						1	30	
統計学	30						1	30	
化学	15						1	15	
人間と生活, 社会の理解									
人間関係論	30						1	30	
カウンセリング	30						1	30	
社会学	15						1	15	
家族論	30						1	30	
倫理学	15						1	15	
医学英語			30				1	30	
英会話	30						1	30	
芸術	30						1	30	
体育		30					1	30	
小計	300	30	30	0	0	0	14	360	

2 専門基礎分野

人体の構造と機能									
解剖学	30						1	30	
生理学	30						1	30	
生化学		30					1	30	
栄養学Ⅰ	15						1	15	
栄養学Ⅱ		15					1	15	
疾病の成り立ちと回復の促進									
薬理学		30					1	30	
微生物学		30					1	30	
病理学		30					2	30	
病態生理学Ⅰ（循環器）		15					1	15	
病態生理学Ⅱ（呼吸器・脳神経）		30					1	30	
病態生理学Ⅲ（消化器・泌尿器・血液・造血器）		30					1	30	
病態生理学Ⅳ（代謝・内分泌・運動器・免疫・アレルギー）		30					1	30	
病態生理学Ⅴ（婦人科・感染症・眼科・歯科・皮膚科・耳鼻科）		30					1	30	
病態生理学Ⅵ小児		15					1	15	
病態生理学Ⅶ精神		15					1	15	
健康支援と社会保障制度									
医療概論	15						1	15	
公衆衛生学			30				1	30	
社会福祉論			30				1	30	
関係法規			30				2	30	
リハビリテーション論			30				1	30	
小計	90	300	120	0	0	0	22	510	

3 専門分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎看護学									
看護の概念	30						1	30	
看護の展開			30				1	30	◎
基礎看護技術Ⅰ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅱ	30						1	30	◎
基礎看護技術Ⅲ		30					1	30	◎
基礎看護技術Ⅳ		30					1	30	
基礎看護技術演習Ⅰ	45						1	45	◎
基礎看護技術演習Ⅱ		45					1	45	◎
臨床看護推論				15			1	15	
臨床看護総論		30					1	30	
看護研究			30				1	30	◎
看護研究演習						15	1	15	◎
地域・在宅看護論									
地域看護論			15				1	15	
地域看護方法論				15			1	15	
在宅看護概論			15				1	15	
在宅看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
在宅看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	
在宅看護方法論Ⅱ				15			1	15	
成人看護学									
成人看護学概論		15					1	15	
成人看護方法論Ⅰ（急性期）			30				1	30	
成人看護方法論Ⅱ回復期（セルフケアの再獲得）				30			1	30	
成人看護方法論Ⅲ回復期（セルフマネジメント）			30				1	30	
成人看護方法論Ⅳ（慢性期）				15			1	15	
成人看護方法論Ⅴ（ターミナルケア）				15			1	15	
老年看護学									
老年看護学概論		15					1	15	
老年看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	◎
老年看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
老年看護方法論Ⅱ				15			1	15	
小児看護学									
小児看護学概論		15					1	15	
小児看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
小児看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	
小児看護方法論Ⅱ				15			1	15	
母性看護学									
母性看護学概論		30					1	30	
母性看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
母性看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	◎
母性看護方法論Ⅱ				15			1	15	◎
精神看護学									
精神看護学概論		30					1	30	
精神看護方法論Ⅰ-1			30				1	30	
精神看護方法論Ⅰ-2				30			1	30	
精神看護方法論Ⅱ				15			1	15	
看護の統合と実践									
医療安全管理				30			1	30	
チーム医療論			30				1	30	
国際看護			15				1	15	
災害看護				30			1	30	
看護管理				15			1	15	
小計	135	240	345	390	0	15	45	1125	

臨地実習

科目	第1年次		第2年次		第3年次		単位数	時間数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎看護学									
基礎看護学実習Ⅰ		40					1	40	
基礎看護学実習Ⅱ				80			2	80	
地域・在宅看護論実習						80	2	80	
成人看護学実習Ⅰ					40		1	40	
成人看護学実習Ⅱ					80		2	80	
成人・老年看護学実習					120		3	120	
老年看護学									
老年看護学実習					120		3	120	
小児看護学									
小児看護学実習					80		2	80	
母性看護学									
母性看護学実習					80		2	80	
精神看護学									
精神看護学実習						80	2	80	
看護の統合と実践									
看護の統合と実践実習						120	3	120	
小計	0	40	0	80	520	280	23	920	

総計	525	610	495	470	520	295	104	2915	
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	--

	1年	2年	3年	総合計
時間数	1135	965	815	2915
単位数	44	39	21	104

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生物学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

生物学/生命科学の学習において、生命（いのち）を維持するしくみを学修する。

◇到達目標

「生命（いのち）を維持するしくみ」を学修し、「ヒトが生きている」ことから「自分の存在」を認識し、「生命（いのち）の大切さ」が理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	生命の誕生・進化、ヒトの誕生（序章・第1章・第8章）	講義	
第2回	細胞の基本構造と機能（第1・2章）	講義	
第3回	酸素呼吸・エネルギー（ATP）合成（第2章）	講義	
第4回	同化・異化、消化酵素（第1・2章）	講義	
第5回	エネルギー（ATP）の利用（筋収縮・能動輸送・発光）（第7章）	講義	
第6回	神経系（感覚・運動・中枢）の構造と機能、神経情報伝達（第7章）	講義	
第7回	生体の恒常性、内分泌系（ホルモン）と自律神経系（第6章）	講義	
第8回	ほ乳動物の各臓器の構造と機能（第6章）	講義	
第9回	メンデル遺伝、ヒトの遺伝（血液型・色覚異常）（第4章）	講義	
第10回	細胞分裂、生殖/発生のしくみ（第3・5章）	講義	
第11回	ハツカネズミの解剖（呼吸器系・循環器系・消化器系・内分泌系・尿生殖器系）	実習	
第12回	DNAの構造・DNA合成（DNAの半保存的複製）（第4章）	講義	
第13回	RNA合成（転写）、タンパク質合成（翻訳）（第4章）	講義	
第14回	生物学講義のまとめ	講義	
第15回	直前試験対策（30分）/終講試験（60分）	講義/試験	

評価方法	☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	「系統看護学講座 基礎分野 生物学」（医学書院）
参考図書	(1) WEB 玉塾 「生物」・「解剖生理」 https://www.webtamajuku.com/ (2) 看護 roo 「解剖生理をおもしろく学ぶ」 https://www.kango-roo.com/sn/k/view/2348
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
教育学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

本授業では、医療従事者として必要な教育学の基礎的知識を身につける。

◇到達目標

1. 教育の理念と目的がわかる。
2. 患者教育・健康教育を行うための基礎となる教授論、学び続ける医療従事者になるための生涯学習の意義と課題がわかる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	看護師にとっての教育学	講義	
第2回	学校・家庭・社会における教育	講義	
第3回	教育の組織化	講義	
第4回	発達と生涯学習	講義	
第5回	教育の担い手	講義	
第6回	キャリア教育	講義	
第7回	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	講義	
第8回	看護と教育のまとめ ・ 試験	講義・試験	

評価方法	☒ 定期試験 (50%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (50%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	木村元編『教育学』（系統看護学講座基礎分野）医学書院 2021 年
参考図書	なし
留意事項	事前学習：必要な場合は指示する。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
情報科学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

教育目標	パソコンと USB メモリの安全で正しい使い方をマスターさせ、日々の学習に使えるようにさせる。
授業概要	OS:Windows10 とアプリケーションソフト Office2013(Word Excel PowerPoint)を演習で学ばせ、パソコンを文房具として使えるようにさせる。

◇到達目標

到達目標	Word により文章が書け、Excle で予定表が作れ、さらにデータを表とグラフに整理でき、PowerPoint で発表原稿をスライドに出来るようになる。
------	---

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	パソコンの起動法と終了法について (電源の on-off)。学校のネットワークシステムの注意 (家庭用パソコンとの違い)。ソフトの起動と終了。アプリケーションの画面構成。リボンの仕組みと操作法の基本。	演習 (パソコン室)	
第 2 回	Word の起動。キーボードの文字の入力。ローマ字入力とかな入力。文字入力 (ひらがな カタカナ 無変換 漢字変換 記号 IME パッド)。文章入力。入力の訂正。再変換。ファイルのサーバー (個人のフォルダ) へ保存。	演習 (パソコン室)	
第 3 回	ページ設定。移動とコピー。文章の作成。基本的な文章の構成。右揃え 左揃え 中央揃え 文字のサイズ フォントグループのボタンの働き	演習 (パソコン室)	
第 4 回	表の挿入。表に文字入力。表の編集 (行・列の挿入と削除)。オンライン画像の挿入。図形の挿入。画像の編集 (文字列の折り返し、塗りつぶしなし、線なし、グループ化)。	演習 (パソコン室)	
第 5 回	Excle の起動。Sheet 画面の構成。データ入力の基礎。数字の全角と半角。日付・時刻の入力。オートフィル。日本語入力。	演習 (パソコン室)	
第 6 回	基本的なワークシート編集 (計算式の入力、演算子について、再計算)。2 乗とルートの計算。割り算と分数。表示形式の変更。	演習 (パソコン室)	
第 7 回	関数を使った計算式 (TODAY(), NOW(), SUM、AVERAGE 等)。小数点。相対参照と絶対参照。	演習 (パソコン室)	
第 8 回	罫線。行・列の編集 (挿入 削除 サイズ変更 着色 斜め線) 円グラフ作成。棒グラフ作成。	演習 (パソコン室)	
第 9 回	条件判定 (IF 関数の使い方 複合条件による判定)。分析ツール (乱数発生ヒストグラム作成)。	演習 (パソコン室)	
第 10 回	PowerPoint の起動。文字テキストの入力。新しいスライドの作成。レイアウトの変更。オンライン画像の挿入。図形の挿入。図形の編集。	演習 (パソコン室)	
第 11 回	アニメーションの基礎 (タイトル、テキスト、画像、図形に設定)。効果のオプション。Snipping Tool を使った画像の取り込み。	演習 (パソコン室)	
第 12 回	3 種類 (開始、強調、終了) のアニメーションの使い分け アニメーションウィンドウの使い方 アニメーションの追加 アニメーションのタイミングの使い方 (開始 遅延 継続時間)	演習 (パソコン室)	
第 13 回	スライドの編集 (コピー 削除 移動)。デザインでテーマを選択 (すべてのスライドに適用 選択したスライドに適用の区別)。スライドショーの操作。	演習 (パソコン室)	
第 14 回	Word、Excle、PowerPoint 間でデータのコピーや共有。総復習。	演習 (パソコン室)	
第 15 回	終講試験【60 分】+まとめ【30 分】	試験・まとめ	
評価方法	☐ 定期試験 (%) ☒ 実技試験 (100 %) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)		

教科書	30 時間でマスターOffice2013 実数出版
参考図書	特になし
留意事項	①USB メモリを用意する ②学校のパソコンの使い方に注意 (サーバーまたは USB メモリに保存しないとデータが削除される)

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
統計学	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

教育目標 看護研究の基礎としての統計処理を学ばせる。
授業概要 保健医学領域において役に立つ統計学の基本的概念や考え方を理解し、看護研究に役立てられるようにする。

◇到達目標

到達目標 データのまとめ方とグラフの描き方、そして統計的推定と検定の考え方を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	2つの統計学（記述統計、推測統計）	演習（パソコン室）	
第2回	データの集め方、データの種類（数量データ、カテゴリーデータ）	演習（パソコン室）	
第3回	無作為抽出法、コインの裏表、サイコロの目	演習（パソコン室）	
第4回	データのまとめ方、大きさ順に並べる、度数分布表	演習（パソコン室）	
第5回	グラフの作り方、ヒストグラム	演習（パソコン室）	
第6回	エクセルの計算、関数の使い方、基本統計量	演習（パソコン室）	
第7回	クロス集計表、 χ^2 値、期待値	演習（パソコン室）	
第8回	統計的仮説検定の考え方	演習（パソコン室）	
第9回	χ^2 検定	演習（パソコン室）	
第10回	正規分布と標準正規分布	演習（パソコン室）	
第11回	標本のデータ数と分布、t分布	演習（パソコン室）	
第12回	対応のあるt検定	演習（パソコン室）	
第13回	相関係数について	演習（パソコン室）	
第14回	平均値と比率の推定	演習（パソコン室）	
第15回	終講試験【60分】＋まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	■定期試験（100%） ■実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %） 筆記試験（与えられたデータを、パソコンで統計処理する実習形式の試験で評価する。）
------	---

教科書	田村浩志・小島隆矢共著：マンガでわかるナースの統計学 ：オーム社
参考図書	
留意事項	筆記試験（与えられたデータを、パソコンで統計処理する実習形式の試験で評価する。）

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
化 学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

教育目標 医学・看護学が目的とする体の科学を理解するのに必要な化学の基礎を学ぶ。 自然って？いのちって？身近な物質や現象をみつめる化学の、科学の眼差しを培う。 授業概要 人の正常な活動や疾病の理解をするため、身体を構成する物質とその反応を修得する。

◇到達目標

医学・看護学が目的とする体の科学を理解するのに必要な化学の基礎を学ぶ。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	化学知識の自己評価としてのショートテスト 化学の復習と講義概論	テスト 自己採点	
第2回	「紙が燃える」と「ヒトが生きている」ことの共通点を化学してみよう。 ビデオ「モデルで考える」	講義	
第3回	無機化合物と有機化合物、原子と分子の話 ビデオ「化学結合」	講義	
第4回	「水に溶ける」とは？水に溶けないものとの違いを考える 塩と酸とアルカリ（塩基）	講義	
第5回	栄養の化学を考える	講義	
第6回	からだの中の化学を考える ビデオ「高分子化合物」	講義	
第7回	まとめ	講義	
第8回	終講試験（発表会）	発表試験	

評価方法	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 20 %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 70 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	「食べられる」科学実験：尾嶋好美 著（サイエンス・アイ新書） 系統看護学講座．人体の構造と機能2 生化学（医学書院）
参考図書	斎藤勝治著 やさしくわかる化学のしくみ ナツメ社
留意事項	事前学習：高校の化学の教科書（文化系のものでもよい）程度は理解してきてほしい。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
人間関係論	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

人間関係をめぐる諸問題にアプローチする学問的基礎を学び、多様な人間関係を多角的に捉える視点を育成する。

◇到達目標

人間関係のトラブルが生じたときに、授業で学んだことを参考にして対応できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	エリクソンの人間発達論（1）・・・第1章のメインテーマ	講義	
第2回	エリクソンの人間発達論（2）	講義	
第3回	エリクソンの人間発達論（3）	講義	
第4回	第2章 対人関係と役割	講義	
第5回	第3章 態度と対人行動	講義	
第6回	第4章 集団と個人	講義	
第7回	第5章 コミュニケーション	講義	
第8回	第6章 カウンセリングと心理療法	講義	
第9回	第7章 コーチング	講義	
第10回	第8章 アサーティブ・コミュニケーション	講義	
第11回	第9章 保健医療チームの人間関係	講義	
第12回	第10章 患者を支える人間関係	講義	
第13回	第11章 家族を含めた人間関係	講義	
第14回	第12章 地域をつくる人間関係	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 演習評価（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ その他（ ％）
------	---

教科書	系統看護学講座 別巻14 基礎分野 人間関係論
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
カウンセリング	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

カウンセリングに関する講義と実習

◇到達目標

カウンセリングに関連する知識と態度の理解。傾聴の基本の習得。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	ガイダンス（カウンセリングって何だろう）	講義	
第2回	自分関係論	講義	
第3回	カウンセリングのルーツ	講義	
第4回	カウンセリングマインド	講義	
第5回	心理療法について（精神分析）	講義	
第6回	心理療法について（認知講堂療法）	講義	
第7回	傾聴について（人間性心理学）	講義	
第8回	積極的傾聴	講義	
第9回	傾聴学習と逐語記録の作成	講義	
第10回	EXP スケール・逐語記録の検討	講義	
第11回	困った患者さんへの対応（BPD）	講義	
第12回	自閉スペクトラムの理解	講義	
第13回	トラウマインフォームドケア	講義	
第14回	看護師のストレスリダクション	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	「心のメッセージを聴く」池見陽著 講談社現代新書
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

社会学の基礎的な用語のひとつ、「人間関係」と「人間関係の諸相」について、対面で講義をします。
--

◇到達目標

学生は、私たちの日々の暮らしの中の「人間関係の諸相」にふれることで、学問のひとつの領域としての「日常」を認識します。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	社会学で学ぶこと 人間関係で理解する社会	講義	
第2回	社会学で学ぶこと 社会学が誕生したころのフランス	講義	
第3回	研究方法としての調査	講義	
第4回	日本に影響を与えたアメリカの社会学者	講義	
第5回	仕事をするために、資格を取得するために	講義	
第6回	文字で伝えること、伝わること	講義	
第7回	私たちが安全な日々を送るために	講義	
第8回	終講試験（45分）	試験	

評価方法	☒ 定期試験（筆記試験 80%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（授業態度 20%）
------	---

教科書	「日常の社会学」（南園節教 著）
参考図書	文楽、歌舞伎、オペラ、クラシック、 演劇、映画、テレビ、読書 等の話題も・・・。
留意事項	テキストを読んでおく（予習 15 分）または、テキスト

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
家族論	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

現在家族の諸現象ライフタスク（人生で直面する課題）の諸問題の分析と対処を探る

◇到達目標

患者やその家族への治療的アプローチ支援を身につける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	資料から見る家族	講義	
第2回	家族看護とは	講義	
第3回	家族とは	講義	
第4回	家族の構造	講義	
第5回	子育てとアタッチメント	講義	
第6回	母性・父性論と母性愛	講義	
第7回	家族システム論	講義	
第8回	家族看護の方法	講義	
第9回	家族アセスメント	講義	
第10回	リラクゼーション	実習	講堂
第11回	傾聴とアサーションスキル	講義	
第12回	家族問題と社会資源・在宅ケア	講義	
第13回	家族支援アプローチ 1	講義	
第14回	家族支援アプローチ 2	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	系統看護学講座「家族看護学」 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：テキストを読んでおくこと

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
倫理学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

医療援助職に必要なコミュニケーション能力をケア論の観点から考察する。

◇到達目標

- 1.医療におけるケアの特徴を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- 2.ケアを仕事とすることに内在する困難を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	ガイダンス・イントロダクション	講義	
第2回	ケアとキューア	講義	
第3回	傾聴とは何か1——傾聴することの困難	講義	
第4回	傾聴とは何か2——傾聴と聞き流し	講義	
第5回	障害をめぐるケア1——障害と向き合うこと	講義	
第6回	障害をめぐるケア2——自己決定の条件	講義	
第7回	患者と患者の家族に対するケア	講義	
第8回	定期試験	試験	

評価方法	☒ 定期試験 (80%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ その他(提出物 20%)
------	---

教科書	プリントを配布する。
参考図書	適宜指示する。
留意事項	私語厳禁。予習・復習を行うこと。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医学英語	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

将来、医学・看護学の英語文献を読み、研究・臨床に活かすこと、医療現場での記録物や外国の患者対応ができるよう、専門用語の習得及び医学英語の読解力を養う。

◇到達目標

看護領域に必要な医学英語の基本を学ぶ。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション・Chapter1	演習	
第2回	Chapter2	小テスト 演習	
第3回	Chapter3	小テスト 演習	
第4回	Chapter4	小テスト 演習	
第5回	Chapter5	小テスト 演習	
第6回	Chapter6	小テスト 演習	
第7回	症状集	小テスト 演習	
第8回	Chapter7	小テスト 演習	
第9回	Chapter8	小テスト 演習	
第10回	Chapter9	小テスト 演習	
第11回	表現集・人体図	小テスト 演習	
第12回	Chapter10	小テスト 演習	
第13回	Chapter11・試験対策	小テスト 演習	
第14回	Chapter13	小テスト 演習	
第15回	終講試験	試験	

評価方法	☒ 定期試験 (90%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

令和5年度 看護学科 シラバス

教科書	Engrish for Medicine(Revised Edition) (Toshiaki Nishimura,Mayumi Nishikawa,Carey Benom 著 金星堂)
参考図書	
留意事項	予習・復習が必須

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
英会話	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

英語によるコミュニケーション能力を高める。専門用語の習得。

◇到達目標

様々なシーンで、英語を使って対応できるようにする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション・Unit1	演習	
第2回	Unit2	演習	
第3回	Unit3	演習	
第4回	Unit4	演習	
第5回	Unit5	演習	
第6回	Unit6	演習	
第7回	Review Unit1～Unit6	演習	
第8回	Unit7	演習	
第9回	Unit8	演習	
第10回	Unit9	演習	
第11回	Unit10	演習	
第12回	Unit11	演習	
第13回	Unit12	演習	
第14回	Review Unit7～12 ・ Preparation for test	演習	
第15回	終講試験	講義・試験	

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	クリスティーンのやさしい看護英会話
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
芸 術	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

絵本製作・美術史等について、実習・講義。時をともにする芸術の活用がコミュニケーションのツールとなること。医学と看護はサイエンスに基づいた「アート」であり、「技術」と「知識」そして「感性と人間性」の三つのアートであること。
--

◇到達目標

絵本製作と近代絵画の鑑賞等、「芸術」を通して心を通わせ、「創造性」を働かすための「豊かな感性」と「豊かな人間性」をあわせ持つ人材を育てること。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	・芸術と看護について…「心と体」のトータルケア ・「絵本製作」…テーマ・制作方法・製本	オリエンテーション 製作	
第2回	絵本製作(2) …表紙をつけて製本。ストーリーを考える	製作	
第3回	絵本製作(3) …ストーリーに沿って下絵の制作	製作	
第4回	絵本製作(4) …製本の大きさで絵と文字を描く	製作	
第5回	絵本製作(5) …製本に絵と文字を写し、彩色をする	製作	
第6回	絵本製作(6) …製本に絵と文字を写し、彩色をする	製作	
第7回	絵本製作(7) …表紙・背表紙を描き、完成する	製作	
第8回	絵本製作(8) …プレゼンテーション	発表・鑑賞	
第9回	絵本作り(9) …プレゼンテーション	発表・鑑賞	
第10回	近代絵画の流れ(1) 古典派からロマン派へ アングル・ドラクロア	講義	
第11回	近代絵画の流れ(2) 自然主義と写実主義 ターナー・コロー・ミレー・ルソー	講義	
第12回	近代絵画の流れ(3) 印象派の誕生 マネ・モネ	講義	
第13回	近代絵画の流れ(4) 印象派の展開 ピカソ・シスレー・スーラ・ドガ他	講義	
第14回	近代絵画の流れ(5) 後期印象派 セザンヌ・ゴッホ・ゴーギャン	講義	
第15回	近代絵画の流れ(6)印象派以外の 19 世紀の画家たち(7)20 世紀の美術へ	講義	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (30%) ☒ その他(作品提出・制作態度) (70%)
------	--

教科書	特になし
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
体 育	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

健康という概念をもとにスポーツ・レクリエーション活動を通して健全な心身の育成のあり方についての基礎知識とその実践を理解する。

◇到達目標

看護学生が医療現場で健康的に活動ができる体力づくりのための基礎と、日常生活へのスポーツ・レクリエーション活動への取り組み方を体得できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	人間と健康について	講義	
第2回	あそびと体力づくりの関係について	講義・演習	
第3回	健康観とライフスタイルの点検	講義	
第4回	代謝エネルギーと1日の必要運動量	演習	
第5回	体力測定1	演習	
第6回	体力測定2	演習	
第7回	レクリエーションダンス	講義・演習	
第8回	レクリエーションスポーツ1（ペタンク）	講義・演習	
第9回	レクリエーションスポーツ2（スカイクロス）	講義・演習	
第10回	生涯スポーツとその実践1（キャッチングザステック他）	講義・演習	
第11回	生涯スポーツとその実践2（チャレンジザゲーム記録会）	演習	
第12回	生涯スポーツとその実践3（ロープジャンプ）	講義・演習	
第13回	音楽療法とレクリエーション活動1	講義・演習	
第14回	音楽療法とレクリエーション活動2	演習	
第15回	スポーツと健康についてまとめ・終講レポート	講義・試験	

評価方法	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 80 %） ☒ その他（ 20 %）
------	---

教科書	必要時に資料提示・プリントの配布
参考図書	参考資料及び教材 運動の健康科学 レクリエーション概論 障害者スポーツの理論他 スポーツレクリエーションについて（ビデオ学習）
留意事項	事前学習：各自が運動に適した服装とシューズを準備すること 日々健康に留意し、ライフスタイルに健全な生活を心がける

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

- ・人体を構成する細胞・組織・臓器について各系統別に学ぶ。
- ・人体の構造が機能的また臨床的にどのように関連しているかについて理解する。

◇到達目標

- (1) 人体の構造を機能・病気と関連して理解する。
- (2) 人体の構造を平面的でなく、立体的に把握する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	解剖学総論	講 義	
第2回	骨格系（総論・頭蓋骨）	講 義	
第3回	骨格系（体幹・上肢・下肢の骨）	講 義	
第4回	筋系（総論・頭部・頸部・胸部・腹部の筋）	講 義	
第5回	筋系（上肢・下肢・背部の筋）	講 義	
第6回	脈管系（心臓・動脈系）	講 義	
第7回	脈管系（静脈系・リンパ系）	講 義	
第8回	呼吸器系	講 義	
第9回	消化器系	講 義	
第10回	消化器系・泌尿器系	講 義	
第11回	生殖器系・内分泌器系	講 義	
第12回	神経系（中枢神経系）	講 義	
第13回	神経系（末梢神経系）	講 義	
第14回	感覚器系・発生学	講 義	
第15回	終講試験	試 験	

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	入門人体解剖学―（南江堂）
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

人体の生理機能（植物性機能と動物性機能）について、器官・組織・細胞・分子のレベルで理解し、疾病とその治療・ケアに関する専門科目を学習するための基礎知識を形成する。

◇到達目標

人体の生理機能（植物性機能と動物性機能）を器官・組織・細胞・分子のレベルで説明できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	生理学概論・細胞の生理学	講義	
第2回	体液	講義	
第3回	消化・吸収の生理学 1	講義	
第4回	消化・吸収の生理学 2	講義	
第5回	呼吸の生理学	講義	
第6回	血液循環の生理学（心臓）	講義	
第7回	血液循環の生理学（血管）	講義	
第8回	血液の生理学	講義	
第9回	尿の生成と排泄の生理学	講義	
第10回	神経系の機能	講義	
第11回	内分泌系の機能	講義	
第12回	代謝と体温調節	講義	
第13回	感覚機能	講義	
第14回	運動機能	講義	
第15回	終講試験（60分）・まとめ（30分）	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（%）
------	---

教科書	系統系看護学講座 解剖生理学 - 人体の構造と機能①（医学書院）
参考図書	ナーシンググラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能① メディカ出版
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生化学	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

生体の恒常性の維持に必要な生体物質の構造と機能ならびにそれらの代謝に関する知識を習得し生化学的生命観を確立する。

◇到達目標

- 1) 生体構成基本物質（糖質、脂質、タンパク質、核酸）の構造の理解
- 2) 生体の設計図である遺伝子の構造と遺伝子発現の理解
- 3) 生体の恒常性維持を支えている生体物質の代謝とその調節機構の理解
- 4) 遺伝情報とその発現や生体物質代謝とその調節の異常による疾患についての理解

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	生化学を学ぶための基礎知識	講義	
第2回	代謝の基礎と酵素・補酵素	講義	
第3回	糖質の構造と機能	講義	
第4回	糖質代謝	講義	
第5回	脂質の構造と機能	講義	
第6回	脂質代謝	講義	
第7回	タンパク質の構造と機能	講義	
第8回	タンパク質代謝	講義	
第9回	ポルフィリン代謝と異物代謝	講義	
第10回	遺伝子と核酸	講義	
第11回	遺伝子の複製・修復・組換え	講義	
第12回	転写	講義	
第13回	翻訳と翻訳後修飾	講義	
第14回	シグナル伝達・がん・生活習慣病	講義	
第15回	終講試験（60分）・解説（30分）	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験（ 75 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 25 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（授業態度 %）
教科書	系統看護学講座．人体の構造と機能〔2〕．生化学
参考図書	
留意事項	1.テキストに目を通してから講義に臨むこと。 2.新型コロナの状況に応じ講義形態等に変更があることがあります。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
栄養学Ⅰ	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

食生活が生体の代謝に影響し、健康の保持・増進、疾病の改善に影響を及ぼす事を学び、栄養・食事に必要な基本的知識を修得する。

◇到達目標

栄養・食事が医療・福祉の場で重要である事を認識できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	栄養学と看護	講義	
第2回	栄養素の種類とはたらき（1）	講義	
第3回	栄養素の種類とはたらき（2）	講義	
第4回	栄養素の消化・吸収・代謝	講義	
第5回	エネルギー代謝	講義	
第6回	栄養ケア・マネジメント	講義	
第7回	栄養状態の評価判定法、健康づくり	講義	
第8回	終講試験【45分】	試験	
評価方法	■筆記試験（100％） □実技試験（％） □演習評価（％） □小テスト（％） □レポート（％） □その他（％）		

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学、人体の構造と機能[3]、医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：テキストの該当ページをよく読んでおくこと。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
栄養学Ⅱ	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

食生活が生体の代謝に影響し、健康の保持・増進、疫病の改善に影響を及ぼすことを学び、栄養・食事に必要な知識を習得する。
--

◇到達目標

栄養・食事が医療・福祉の場で重要であることを認識できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ライフステージと栄養（1）	講義	
第2回	ライフステージと栄養（2）	講義	
第3回	ライフステージと栄養（3）	講義	
第4回	調理実習	実習	
第5回	高齢者の食事	実習	
第6回	調理実習	実習	
第7回	臨床栄養	実習	
第8回	終講試験（45分）	試験	

評価方法	☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（％） ☐ 演習評価（％） ☐ 小テスト（％） ☐ レポート（％） ☐ その他（％）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能3 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：テキストの該当ページをよく読んでおくこと

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
薬理学	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

薬物治療上、必要な薬理学的知識、薬物使用法を修得する。薬物作用を理解し、患者の治療および看護に必要な基本的知識を修得する。

目的：看護業務においてヒトへの薬物の治療的応用やその有効性・安全性を習得する。

目標：薬物を用いた疾病の治療、予防や検査を行うための基礎的な知識を習得する。

薬を用いた医療行為の円滑な実践と医療事故の防止を身につける。

◇到達目標

達成目標

- 1) 主な薬物について、期待される主な作用と作用機序、重篤な副作用について述べる事が出来る。
- 2) 薬物の適正使用のための投与上の注意点、薬の管理について述べる事が出来る。
- 3) 薬事法、麻薬、向精神薬取締法を理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	総論第1章（薬理学とは、薬による治療）、第2章（薬力学）	講義	
第2回	総論第2章（薬物動態学、薬物相互作用）	講義	
第3回	第2章（薬効の個人差、薬物使用の有益差と危険性、薬と法律）	講義	
第4回	第3章 抗感染症薬	講義	
第5回	第4章 抗がん薬 第5章 免疫治療薬	講義	
第6回	第6章 抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義	
第7回	第7章 末梢での神経活動に作用する薬物	講義	
第8回	第8章 中枢神経系に作用する薬物	講義	
第9回	第9章 心臓・血管系に作用する薬物	講義	
第10回	第10章 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義	
第11回	第11章 物質代謝に作用する薬物	講義	
第12回	第12章 皮膚科・眼科用薬 第13章 救急の際に使用される薬物	講義	
第13回	第14章 漢方薬 第15章 消毒薬	講義	
第14回	付章 輸液製剤・輸血剤・看護業務に必要な薬の知識	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	☒ 定期試験（ 80%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 20%） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %） ※上記を総合して評価する
------	---

教科書	系統看護学講座 『薬理学』： 医学書院 教科書にそって、パワーポイントにて講義する
参考図書	
留意事項	事前学習：教科書の各章のゼミナールについては確実に理解しておくこと。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
微生物学	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

感染症の原因となる病原微生物の基礎的知識を習得し、病原体と生体の免疫応答を理解すると共に、各論として病原性細菌・ウイルス・真菌・原虫・プリオンについて学ぶ。

◇到達目標

- (1) 微生物についての基礎的知識を学ぶ。
- (2) 殺菌の手段及びそれらの適切な使用方法を理解する。
- (3) 免疫学の基礎を理解する。
- (4) 主要な病原性細菌・ウイルス・真菌・原虫・プリオンを理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	総論：A. 緒言	講義	
第2回	B. 細菌；(1) 形態 (2) 構造	講義	
第3回	(3) 増殖 (4) 分類	講義	
第4回	C.ウイルス；(1) 特徴 (2) 構造 (3) 増殖 (4) 分類	講義	
第5回	滅菌と消毒：(1) 物理的殺菌 (2) 化学的殺菌	講義	
第6回	免疫：A.感染防御	講義	
第7回	B.免疫病	講義	
第8回	細菌各論：(1) グラム陽性球菌	講義	
第9回	(2) グラム陽性桿菌 (3) グラム陰性球菌	講義	
第10回	(4) グラム陰性桿菌	講義	
第11回	(5) らせん菌 (6) リケッチア類 (7) マイコプラズマ	講義	
第12回	ウイルス各論：(1) DNA ウイルス	講義	
第13回	(2) RNA ウイルス	講義	
第14回	真菌・原虫・プリオン	講義	
第15回	終講試験	試験	

評価方法	☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座. 疾病のなりたちと回復の促進 (4). 微生物学
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病理学	外部講師	1	2	後期	必修

◇講義概要

疾病や障がいの基本概念を理解するための疾病の成り立ち、器官、組織も変化を通して修得し、看護師として必要な基本知識を修得します。

◇到達目標

病理学は、病気及び病的状態の本質を特に細胞レベルを中心として学ぶ教科です。それに対応するためには、特に主要疾患への本質的な理解が必要で、病理学はその根幹をなす教科です。 日々の看護の実践のために、その基礎となる代表的な疾病を中心として系統的・横断的な知識を身につけて頂きます。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	病理学とは	講義	
第2回	細胞・組織の損傷	講義	
第3回	炎症	講義	
第4回	免疫	講義	
第5回	循環障害 1	講義	
第6回	循環障害 2	講義	
第7回	代謝障害	講義	
第8回	先天異常 1	講義	
第9回	先天異常 2	講義	
第10回	腫瘍 1	講義	
第11回	腫瘍 2	講義	
第12回	呼吸器系の疾患	講義	
第13回	内分泌系の疾患	講義	
第14回	脳・神経系の疾患	講義	
第15回	終講試験 (60 分) ・まとめ (30 分)	試験・まとめ	

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座，専門基礎分野，病理学，医学書院
参考図書	
留意事項	講義内容は、理解度に応じて変更することがあります。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅰ（循環器）	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

循環器の解剖、病態生理、症状、診断方法、検査の基礎知識を教授する。

◇到達目標

(1) 循環器疾患の特有な症状とその原因を理解し、観察、技術を習得する。 (2) 循環器疾患の検査方法治療法の基礎を習得する。 (3) 臨床の場面での思考、優先順位のつけ方を学習する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	心臓の構造・機能・病態生理・検査と治療	講義・GW	
第2回	疾患の理解（弁膜症・大血管・心膜心筋疾患）・リンパ管	講義・GW	
第3回	疾患の理解（心不全・血圧異常）	講義・GW	
第4回	疾患の理解（不整脈）	講義・GW	
第5回	疾患の理解（虚血性心疾患・肺塞栓）	講義・GW	
第6回	臨床の場面から見た虚血性心疾患	講義・GW	
第7回	臨床の場面から見た心不全	講義・GW	
第8回	終講試験	試験 45分	

評価方法	☒ 筆記試験（100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座，専門7，成人看護学[3]，循環器，医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：上記教科書を一度読んでおくこと。 インターネットにて心臓、血管解剖図、心電図を捜しイメージ出来るようになっておくこと。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅱ	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

【呼吸器】 様々な疾患における症状や徴候を病態生理学的に理解することによって、患者の病態を把握し、その原因を考察するための知識を得て、思考過程を学ぶ。疾患を学ぶには、まずその臓器の構造と機能を復習する。その上で疾患のもっている病態生理を理解し、診断、治療を学ぶ。 【脳神経外科】 臨床的に系統別疾患概念や障がい発生の理解を深め、疾病や障がいの仕組みを修得する。(脳神経系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患)
--

◇到達目標

【呼吸器】 呼吸器疾患の病態生理を理解したうえで、診断、治療を学び、この知識を看護学に反映させることができるようになる。 【脳神経外科】 脳神経疾患の看護に必要な基礎知識を習得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	【呼吸器】呼吸器の構造と機能・検査	講義	
第2回	【呼吸器】症状とその病態生理	講義	
第3回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第4回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第5回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第6回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第7回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第8回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第9回	【呼吸器】疾患の理解	講義	
第10回	【脳神経外科】脳神経系の機能と構造	講義	
第11回	【脳神経外科】症状と病態生理	講義	
第12回	【脳神経外科】脳血管障害	講義	
第13回	【脳神経外科】脳腫瘍	講義	

令和5年度 看護学科 シラバス

第14回	【脳神経外科】頭部外傷、その他	講義	
第15回	【脳神経外科】疾患の理解	講義	

評価方法	☒ 定期試験 (100%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座，専門分野Ⅱ，成人看護学[2]，呼吸器，医学書院 系統看護学講座，専門11，成人看護学[7]，脳・神経，医学書院
参考図書	
留意事項	【呼吸器】適宜プリントを配付する 【脳神経外科】事前学習：解剖生理学の教科書で人体構造（脳・神経）を復習しておくこと

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅲ	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

【消化器】 消化器疾患の病態生理を理解したうえで、診断、治療を学び、この知識を看護学に反映させることが目的である。 【泌尿器】 臨床的に系統別疾患概念や障がい発生の理解を深め、疾病や障がいの仕組みを修得する。（消化器系疾患、腎・泌尿器疾患） 泌尿器科疾患に関する概略について理解を深めるとともに看護における役割を認識する。 【血液・造血器】 血液・造血器の構成と働きをふまえ、各種血液疾患の病態と治療を学ぶ。

◇到達目標

【消化器】 様々な疾患における症状や徴候を病態生理学的に理解することによって、患者の病態を把握し、その原因を考察するための知識を得て、思考過程を学ぶ。疾患を学ぶには、まずその臓器の構造と機能を復習する。その上で疾患のもっている病態生理を理解し、診断、治療を学ぶ。 【泌尿器】 看護師国家試験の問題が解ける 【血液・造血器】 各血液疾患の概要をイメージできるようになる。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	【消化器】 食道・胃の構造と機能	講義	
第2回	【消化器】 食道・胃疾患の診断と治療	講義	
第3回	【消化器】 消化器疾患の症状・徴候とその病態生理	講義	
第4回	【消化器】 小腸・大腸の構造と機能	講義	
第5回	【消化器】 小腸・大腸疾患の診断と治療	講義	
第6回	【消化器】 肝臓・胆のう・膵臓の構造と機能	講義	
第7回	【消化器】 肝・胆・膵疾患の診断と治療	講義	
第8回	【泌尿器】 教科書 第2章 腎・泌尿器の構造と機能（A～E） ～第3章 症状とその病態生理（A～J）	講義	
第9回	【泌尿器】 教科書 第4章 検査と治療・処置（A～D）	講義	
第10回	【泌尿器】 教科書 第4章 検査と治療・処置（E～F） ～第5章 疾患の理解（A～H）	講義	
第11回	【泌尿器】 教科書 第5章 疾患の理解（I～L）	講義	

令和5年度 看護学科 シラバス

第12回	【泌尿器】教科書 第5章 疾患の理解 (M～O)	講義	
第13回	【血液・造血器】 ○ 血液の生理と造血のしくみ ○ 検査・診断と症候、病態生理	講義	
第14回	【血液・造血器】 ○ 赤血球系の異常 ○ 出血性疾患	講義	
第15回	【血液・造血器】 ○ 白血球系の異常 ○ 造血器腫瘍	講義	

評価方法	☒ 定期試験 (90%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	【消化器】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学【5】 医学書院 【泌尿器】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 腎・泌尿器, 成人看護学[8] 医学書院 【血液・造血器】 系統看護学講座, 専門分野Ⅱ, 成人看護学4, 血液・造血器, 医学書院
参考図書	
留意事項	【消化器】 適宜プリントを配付する 【泌尿器】 事前学習: 教科書の予習、熟読 【血液・造血器】 テキスト中の病名および太字の用語を暗記しておくこと

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅳ	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

【代謝・内分泌】 内分泌・代謝器官の疾患の病態生理を理解したうえで、診断、治療を学び、この知識を看護学に反映させる。 【運動器】 骨・筋肉・関節を中心とする運動器の構造や機能を知り、それらに起こる疾患や外傷の診断および保存的や手術的を教授する。近年の急速な少子高齢化により、運動器疾患の急増とともに、その看護の重要性が注目されている。 【免疫・アレルギー疾患】 看護業務に役立つ、免疫・アレルギー・膠原病疾患の臨床的基礎知識を理解し修得します。
--

◇到達目標

【代謝・内分泌】 内分泌・代謝器官の疾患特有な症状とその原因を理解し、看護に活かせる知識や技術を習得する。 【運動器】 1. 運動器の構造や機能を教授する。 2. 骨・筋肉・靭帯・関節に起こる外傷や障害を習得させる。 3. とくにこの領域内でも発生頻度の高い高齢者の骨折、スポーツ障害を習得させる。 【免疫・アレルギー疾患】 看護業務実施上、必要な免疫のしくみと、アレルギー・膠原病各疾患の理解を目指します。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	【代謝・内分泌】 内分泌・代謝器官の構造と機能	講義	
第2回	【代謝・内分泌】 内分泌疾患の理解	講義	
第3回	【代謝・内分泌】 内分泌疾患の理解	講義	
第4回	【代謝・内分泌】 代謝疾患の理解	講義	
第5回	【代謝・内分泌】 代謝疾患の理解	講義	
第6回	【運動器】 運動器の構造と機能 運動器の診断学	講義	
第7回	【運動器】 骨折・脱臼	講義	
第8回	【運動器】 脊椎・脊椎疾患（脊椎損傷を含む）	講義	
第9回	【運動器】 関節疾患	講義	
第10回	【運動器】 スポーツ傷害・リハビリ 国試対策	講義	
第11回	【免疫・アレルギー疾患】 膠原病 総論 自己免疫疾患とその機序、病態と症状 検査と治療	講義	

令和5年度 看護学科 シラバス

第12回	【免疫・アレルギー疾患】膠原病 各論Ⅰ 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症	講義	
第13回	【免疫・アレルギー疾患】膠原病 各論Ⅱ 多発性筋炎、皮膚筋炎、血管炎症候群、他	講義	
第14回	【免疫・アレルギー疾患】アレルギー 総論 免疫のしくみ 検査と治療	講義	
第15回	【免疫・アレルギー疾患】アレルギー 各論 気管支喘息、アレルギー性鼻炎、他	講義	

評価方法	☒ 定期試験 (90%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	【代謝・内分泌】系統看護学講座，成人看護学[6]，内分泌・代謝，医学書院 【運動器】系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学 『10』 医学書院 【免疫・アレルギー疾患】系統看護学講座，専門分野Ⅱ，アレルギー・膠原病・感染症，医学書院
参考図書	【運動器】標準整形外科学
留意事項	【免疫・アレルギー疾患】講義内容は、理解度に応じて変更することがあります。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学V	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

【婦 人】

女性の生理機能は複雑であるが、きわめて理論的に理解できるところが多い。
その基本的なところを知ることが他教科のホルモン作用全般の理解につながる。

【感染症】

感染症の発症機序、診断、治療、予防について概説する

【眼 科】眼科主要疾患の理解

【歯 科】臨床的に系統別疾患概念や障がい発生の理由を深め、疾病や障がいの仕組みを修得する。（生殖器疾患、感覚器疾患、歯科・口腔系疾患）

【皮膚科】

皮膚の構造と機能や、皮膚疾患の病態生理と症状・検査・診断など、および

皮膚科疾患の医療の動向や最近の治療法を教授する

【耳鼻科】耳鼻咽喉科疾患の病態生理と症状・診断・検査方法などの基礎知識を教授する。

◇到達目標

【婦 人】

- ① 構造と機能（女性生殖器及びホルモン作用）
- ② 検査、治療は一般のそれとどのような特殊性があるか

【感染症】

感染症の発症機序、診断、治療、予防についてそれぞれ看護師として説明・実践できる。
医療関連感染症とその影響および予防について説明・実践できる。

【眼 科】

- （１）眼科外来の特徴と各種検査を通じ、疾患の症状と治療、処置について。
- （２）視力障害のある患者に対する看護に役立たせる。

【歯 科】

歯・口腔の構造と機能や歯・口腔疾患の病態生理と症状・診断・検査方法などの治療法と口腔疾患の基礎知識を教授する。

歯・口腔の構造と機能・病態生理について学ばせ、歯と口腔内の治療・処置・特殊検査法など最近治療法やトピックスなどを理解させる。

歯・口腔内の症状とその原因を理解させ、看護に生かせる知識や技術を習得させる。

【皮膚科】

- （１）皮膚の構造と機能・病態生理について学ばせ、皮膚疾患の治療・処置・特殊検査法を理解させる。
- （２）皮膚科疾患特有な症状とその原因を理解させ、看護に生かせる知識や技術を習得させる。

【耳鼻科】

耳鼻咽喉器官の病態生理について学ばせ、耳鼻咽喉疾患の治療・処置・特殊検査法を理解させる。

令和5年度 看護学科 シラバス

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	【婦 人】 婦人科とホルモン・女性のライフサイクル 性の決定・女性生殖器・月経のメカニズム	講義	
第2回	【婦 人】 月経異常、無月経、避妊法、ピル、	講義	
第3回	【婦 人】 性感染症、子宮頸癌、子宮体癌	講義	
第4回	【婦 人】 子宮筋腫、子宮内膜症	講義	
第5回	【婦 人】 卵巣癌、絨毛性疾患、乳癌、不妊症（検査、治療）	講義	
第6回	【感染症】 感染症とは何か、どんな疾患があるか 感染症の発症機序について 感染症の原因となる微生物について 感染症治療における看護師の役割 耐性菌の現状と抗菌薬の適正使用	講義	
第7回	【感染症】 医療関連感染症とは何か、どんな感染症があるか。 医療関連感染症の防止策 標準予防策、特に手指衛生について 感染経路別予防策 職業感染症対策 針刺し・粘膜曝露事故の現状 ワクチン	講義	
第8回	【眼 科】 眼科の検査、主要症状・処置	講義	
第9回	【眼 科】 主要疾患・治療について	講義	
第10回	【歯 科】 歯・口腔の構造と機能 歯の異常と疾患、歯周組織の疾患	講義	
第11回	【歯 科】 過去国家試験問題より演習 全身の健康と歯周病とのかかわり	講義	
第12回	【皮膚科】 皮膚の構造と機能、病態生理を中心に皮膚科の総論	講義	
第13回	【皮膚科】 皮膚科疾患の理解を深めるための各論	講義	
第14回	【耳鼻科】 耳の疾患の症状と検査・処置	講義	
第15回	【耳鼻科】 鼻・咽喉頭の疾患の症状と検査・処置	講義	

令和5年度 看護学科 シラバス

評価方法	☒定期試験（ 90%） ☐実技試験（ %） ☐演習評価（ %） ☒小テスト（ 10%） ☐レポート（ %） ☐その他（ %）
教科書	【婦 人】系統看護学講座，専門分野Ⅱ，成人看護学9 女性生殖器，医学書院 【感染症】系統看護学講座 15，成人看護学[11]，アレルギー・膠原病・感染症，医学書院 【眼 科】系統看護学講座，専門Ⅱ，成人看護学[13]，眼，医学書院 【歯 科】系統看護学講座，専門 19，成人看護学[15]，歯・口腔，医学書院. 解剖トレーニングノート 医学教育出版社 【皮膚科】系統看護学講座，成人看護学 12，皮膚科，医学書院 【耳鼻科】系統看護学講座、専門Ⅱ、成人看護学 [14]、耳鼻咽喉、医学書院
参考図書	
留意事項	【眼 科】事前学習：眼の解剖生理を教科書で復習しておく。 【歯 科】事前学習：解剖生理の歯・口腔を復習しておく 【皮膚科】事前学習：教科書を通読しておくこと。 【耳鼻科】解剖生理の教科書で耳鼻咽喉を復習しておく

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅵ（小児）	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

小児の代表的疾患の病態、診断、治療などを教授する。
小児の代表的疾患の病態を理解させ、診断、治療を習得させる。

◇到達目標

小児期の疾患や障がいの症状・経過の特性、治療、看護の特殊技術を修得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	小児の成長・染色体異常・先天異常・新生児疾患	講 義	
第2回	内分泌・代謝性疾患・血液疾患	講 義	
第3回	感染症－ウイルスと細菌	講 義	
第4回	免疫・アレルギー疾患・予防接種	講 義	
第5回	呼吸器・循環器疾患	講 義	
第6回	消化器・悪性新生物・子供の事故外傷	講 義	
第7回	腎・泌尿器・神経・精神疾患	講 義	
第8回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	☒ 定期試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2
参考図書	
留意事項	事前学習：教科書の予習をすること

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病態生理学Ⅶ（精神）	外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

看護師として必要な精神医学の知識を履修すること

◇到達目標

多様な精神疾患への理解

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	精神疾患の症状	講義	
第2回	精神疾患の検査・治療	講義	
第3回	統合失調症・児童精神	講義	
第4回	うつ病	講義	
第5回	認知症	講義	
第6回	中毒・人格障害	講義	
第7回	不安障害・摂食障害・てんかん・症状精神病	講義	
第8回	まとめ・終講試験	講義・試験	

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系看 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 授業プリント
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医療概論	外部講師	1	1	前期	必修

◇講義概要

最近の医療界でトピックになっていることから幾つかを取り上げ、それぞれについて詳しく知り、そこから普遍的な事を学んでいく。
--

◇到達目標

人生100年時代と言われる現在、これから看護師になるべく学んでいく看護学生にとって必要とされる基礎的スキルを身につける。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	社会人としての看護師に必要なことを学ぶ	講義	
第2回	児童虐待を知り、教育について学ぶ（＋教科書）	講義	
第3回	EBMを知り、正しい情報について学ぶ（＋教科書）	講義	
第4回	「死」を知り、終末期医療について学ぶ（＋教科書）	講義	
第5回	医療安全を知り、成長について学ぶ（＋教科書）	講義	
第6回	災害医療を知り、防災を学ぶ（＋教科書）	講義	
第7回	KJ法（テーマは第6回の講義の最後に出します）	講義	
第8回	定期試験	講義	

評価方法	☒ 定期試験（80%） ☐ 実技試験（%） ☐ 演習評価（20%） ☐ 小テスト（20%） ☐ レポート（%） ☐ その他（%）
------	---

教科書	系統看護学講座「医学概論」
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
公衆衛生学	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

公衆衛生学では、個々の患者だけでなく、より多くの人々の健康の保持増進、および疾病予防を支援する方略を概説する。また、生活、医療、自然、制度などの環境因子が健康に与える影響についても概説する。

◇到達目標

1. 公衆衛生の理念・概念を、公衆衛生のシステムや政策と統合し理解できる。
2. 公衆衛生の対象をとらえる視点を理解し、疾病予防や健康増進などの活動がイメージできる。
3. 地域診断を通じて地域の健康課題を見出し、看護活動がイメージできる。
4. 地域のそれぞれの対象にアプローチできる知識を身につける。
5. 環境が健康に与える影響と、疾病を予防し健康を保持増進する方略を学ぶ。
6. 公衆衛生の歴史を学び、現在そしてこれからの、看護職としてのあり方を考えることができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	公衆衛生の理念・概念 ヘルスプロモーションとは、健康格差と社会経済格差、ソーシャルキャピタルとは	講義	
第2回	わが国の公衆衛生システムと政策 国と地方自治体、保健所、市町村保健センター、民間や住民組織の役割	講義	
第3回	公衆衛生の歴史 公衆衛生の歴史と公衆衛生を学ぶ意義	講義	
第4回	公衆衛生の視点 個人、集団、組織をどうみるか	講義	
第5回	わが国の健康問題の現状と課題 長寿国日本、健康づくり対策、生活習慣病、がん、自殺について	講義	
第6回	公衆衛生の視点1 地域診断の意義と活用（コミュニティ・アズ・パートナーモデルとは）	講義	
第7回	公衆衛生の視点2 地域診断の意義と活用（地域診断の構成要素、保健統計の活用）	講義／演習	グループワーク
第8回	公衆衛生の視点3 地域診断の意義と活用（健康課題と予防活動への展開）	講義／演習	グループワーク
第9回	母子保健 母子を対象にした活動の目的と意義、施策、児童虐待、育児支援）	講義	
第10回	高齢者保健・精神保健 高齢者を支えるシステム・制度／精神保健を支えるシステム・制度	講義	
第11回	感染症対策・難病対策 感染症法、主な感染症の特徴と近年の動向／難病対策を支えるシステム・制度	講義	
第12回	産業保健・学校保健 産業保健の意義と目的、職業性疾病、学校保健の意義と目的、児童生徒の健康管理	講義	レポート
第13回	環境保健 環境問題の歴史、環境と健康へのリスク(大気汚染、土壌汚染、水質汚染、居住環境、食品保健)	講義	

令和5年度 看護学科 シラバス

第14回	健康危機管理と災害 健康危機管理とは、健康危機管理体制、災害時における看護職の役割	講義	
第15回	授業のまとめ 30分／試験 60分	講義・試験	試験

評価方法	☒ 定期試験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	公衆衛生 第6版 (ナーシング・グラフィカ) 単行本 - 2022/12/1 平野 かよ子 (編集), 山田 和子 (編集), 曾根 智史 (編集), 守田 孝恵 (編集)
参考図書	・国民衛生の動向 2022/2023 (厚生指標 2022年8月増刊) 雑誌 - 2022/8/26 一般財団法人 厚生労働統計協会 (著) ・産業看護学 第2版 2022年版 単行本 - 2022/1/28 河野啓子 (著)
留意事項	・公衆衛生看護分野で行政保健師、産業保健師の経験を積んだ教員が教授する。 ・授業前には、テキストの次回授業内容の箇所を読んでおくこと・授業後にはわからなかった箇所について自身で調べ理解しておく、また、わからなかったことをそのままにせず教員に質問をするなどして必ず解決をしておくこと。質問については第1回授業で示す教員のメールアドレスを活用する、また授業後の時間に直接質問をする。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会福祉論	外部講師	2	1	後期	必修

◇講義概要

社会福祉及び社会保障について、歴史的過程と現状、行政、人々の生活及び保健、医療、福祉、看護の関わりについて学ぶ。

◇到達目標

社会福祉の仕組みや法体系を理解する。
社会を構成する家族、地域の機能変化と社会福祉制度の関係を理解する。
看護師に必要な社会福祉に関する知識を獲得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	社会の変化 少子と高齢化①	講義	
第2回	社会の変化 少子と高齢化②	講義	
第3回	社会の変化 少子と高齢化③	講義	
第4回	家族形態の変化①	講義	
第5回	家族形態の変化①	講義	
第6回	家族力、地域力の変化①	講義	
第7回	家族力、地域力の変化②	講義	
第8回	人口構成の変化と社会保障①	講義	
第9回	人口構成の変化と社会保障②	講義	
第10回	社会を支える諸制度の成り立ち①	講義	
第11回	社会を支える諸制度の成り立ち②	講義	
第12回	戦前から戦後の社会福祉①	講義	
第13回	戦前から戦後の社会福祉②	講義	
第14回	選別的福祉から普遍的福祉へ	講義	
第15回	試験【60分】＋まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	☒ 定期試験 (70%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ その他 (授業態度点 30%)
------	--

教科書	「社会福祉」健康支援と社会保障制度③ 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習：テキストを事前に熟読してください。また新聞、ニュース等を通して福祉問題に関心を持ってください。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
関係法規	外部講師	2	2	前期	必修

◇講義概要

1. 法についての基礎知識を学習し、看護職には様々な法規が関わっていることを理解する。
2. 看護職として業務を行う上で必要な医事、衛生、社会保障、労働などに関する法規を学ぶ。

◇到達目標

保健医療福祉に必要な法規を理解し、看護職としての法的責任を学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	法の概念：法の種類、衛生法、厚生労働行政のしくみ	講義	小テスト
第2回	看護法：保助看法、看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	小テスト
第3回	医事法①：医療法	講義	小テスト
第4回	医事法②：医療関係資格法	講義	小テスト
第5回	医事法③：医療を支える法	講義	小テスト
第6回	保健衛生法①：地域保健法、健康増進法、精神・母子・難病に関する法	講義	小テスト
第7回	保健衛生法②：感染症に関する法	講義	小テスト
第8回	保健衛生法③：食品に関する法、環境衛生法	講義	小テスト
第9回	薬務法：薬事一般に関する法律、麻薬・毒物などの法	講義	小テスト
第10回	社会保険法：健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法、介護保険法、国民年金法、厚生年金保険法	講義	小テスト
第11回	福祉法：社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法、障害者基本法等	講義	小テスト
第12回	労働法と社会基盤整備：労働基本法、育児介護休業法、男女雇用機会均等法等	講義	小テスト
第13回	環境法：環境保全の基本法、公害防止の法、自然保護法	講義	小テスト
第14回	地方病について：山梨県でおきた日本住血吸虫症の撲滅までの闘い	講義	レポート
第15回	まとめ・終講試験	まとめ・試験	

評価方法	■定期試験（ 60 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	■小テスト（ 30 %） ■レポート（ 10 %） □その他（ %）

教科書	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令.
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション論	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

□教育目標 成人各期の特徴及びリハビリテーション看護に必要とされる知識・技術を発症から維持期に至るまでの経過を踏まえ対象となる人の身体的・心理的・社会的特徴、リハビリ看護の役割と機能を学習する。 □授業概要 リハビリテーションという視点から医療を捉えることで看護の機能の重要な側面について学ぶ。

◇到達目標

□リハビリテーションを必要とする人の特徴と看護援助を理解する。 □身体機能維持・回復を促すための看護援助及び障害者の日常生活行動を再構築するための援助方法を理解する。 □チーム医療及びリハビリチームにおける看護師の役割と機能について理解する。 □家族への援助方法を理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーション総論・リハビリテーション看護の概論	講義	
第2回	リハビリテーション看護の対象・リハビリテーション看護に関する法制度	講義	
第3回	ステージ別リハビリテーション看護	講義	
第4回	リハビリテーション看護を展開するための基盤	講義	
第5回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 運動機能障害	講義	
第6回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 摂食嚥下障害	講義	
第7回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 排泄機能障害	講義	
第8回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 呼吸機能障害	講義	
第9回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 言語障害	講義	
第10回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 高次脳機能障害	講義	
第11回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 性機能障害・視覚障害	講義	
第12回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 聴覚障害	講義	
第13回	生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 事例展開	講義・その他	
第14回	これからのリハビリテーション	講義	
第15回	終講試験（60分）+まとめ【30分】	試験・まとめ	

評価方法	■定期試験（ 100 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	--

教科書	系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院
参考図書	
留意事項	授業を休まない。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護の概念	坂本 洋子	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

看護とは何か、看護理論を学び看護・看護学の現状と方向性を知る。看護の機能と役割を理解する。また、人間のライフスタイルにおける健康の意義とチーム医療の場で、看護実践に必要な基礎的知識を修得する。

◇到達目標

1. 看護の基盤である看護モデル、看護の役割と機能、看護倫理が理解できる。
2. 看護の歴史的変遷を理解できる。
3. 看護理論家にみる看護の概念を学び、自己の看護観を培うことができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備 考
第1回	序章 看護学を学ぶにあたって 看護とはなにをする職業なのか	講義 グループワーク レポート	
第2回	第1章 看護とは ＊看護の本質 ＊看護の役割と機能	講義	
第3回	第2章 看護の対象の理解	講義	
第4回	人間の暮らしの理解 基本的ニーズの理解 「看護の基本となるもの」	講義 レポート	
第5回	第3章 国民の健康状態と生活 ＊健康の捉え方 ＊国民の健康状態 ＊国民のライフサイクル	講義	
第6回	第4章 看護の提供者 ＊職業としての看護 ＊看護の歴史	講義 レポート	
第7回	看護哲学を論じた理論家による概念モデル① 主な理論家の看護概念	グループワーク レポート	
第8回	看護哲学を論じた理論家による概念モデル② 主な理論家の看護概念	グループワーク レポート	

令和5年度 看護学科 シラバス

第9回	看護職の養成制度 看護職者の継続教育とキャリア開発	講義	
第10回	第5章 看護における倫理 *医療をめぐる倫理 *看護実践における倫理的課題	講義	
第11回	第6章 看護の提供のしくみ *サービスとしての看護 *看護をめぐる制度と政策	講義	
第12回	医療安全と医療の質の保証	グループワーク	
第13回	第7章 広がる看護の活動領域 *国際化と看護 *災害時における看護	講義 グループワーク	
第14回	ナイチンゲールの実践に見る看護師の知識と判断力 「看護覚え書き」	グループワーク レポート	
第15回	まとめ 30分 終講試験 60分	講義 テスト	

評価方法	☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト () ☒ レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 医学書院
参考図書	「看護の基本となるもの」 V.ヘンダーソン 看護協会出版会 「看護覚え書き」 F.ナイチンゲール, 日本看護協会出版会
留意事項	参考図書を受講前に読んでおく必要がある。 講義後は指定されたレポートを作成し(60分) 次回の講義時に提出すること。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護の展開 (実務経験のある教員等による授業科目)	坂本 洋子	2	1	前期	必修

◇講義概要

看護過程についての講義と事例を用いた演習を実施し、発表により学生間で意見交換を行う。

◇到達目標

- 1、看護過程の構成要素（アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価）の意味と方法を説明することができる。
- 2、ゴードンの機能的健康パターンをアセスメントの枠組みとして活用し、系統的に情報収集し、アセスメントし、看護上の問題点を抽出することが出来る。
- 3、アセスメントに基づいた看護計画の立案が出来る。
- 4、看護計画の評価の視点を理解し、説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程とは何か。看護過程の構成要素	講義	
第2回	アセスメント（情報収集と分析）	講義	
第3回	ゴードンの機能的健康パターンの理論的背景	講義	
第4回	ゴードンの機能的健康パターンの各クラスターにおける分析の視点	講義	
第5回	情報の分類・整理、解釈・分析、看護問題の抽出方法と関連図	講義・演習	
第6回	看護診断（1）看護診断とは。看護診断の記述法。	講義	
第7回	看護診断（2）解釈から看護診断をつけるまでの方法	講義	
第8回	看護診断（3）関連図を用いた看護診断の統合	講義・演習	
第9回	看護診断の優先順位と看護計画の目的と概要	講義	
第10回	看護目標（成果）と看護計画の具体的な立案方法	講義	
第11回	事例展開演習	講義・演習	
第12回	看護計画の実施前の準備や実施上の注意点と看護記録の書き方	講義	
第13回	看護計画の発表	演習	
第14回	看護計画の発表	演習	

令和5年度 看護学科 シラバス

第15回	看護計画を評価する目的と方法・終講試験	講義・試験	
------	---------------------	-------	--

評価方法	☒ 定期試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座，専門Ⅱ基礎看護技術 I 医学書院
参考図書	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 照林社 看護診断ハンドブック 医学書院
留意事項	講義後、講義内で提示した課題に取り組む（60分）適宜、講義前に提出を指示します。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術 I コミュニケーション・記録報告 環境調整・感染予防・安全管理 (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉由美・矢追裕子・水田あき・阪本由美	1	1	前期	必修

◇講義概要

対象者の生活環境を整える技術を習得する

◇到達目標

1. 療養生活の中で、対象の生活スタイルに配慮し、室内の気候、空気の清浄性やにおいて、光・音などの環境条件を整えることの必要性和看護の役割が理解できる 2. コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解できる 3. 看護記録の目的と留意点、その構成が理解できる 4. 医療現場における「報告・連絡・相談」の重要性を理解できる 5. 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、看護師が感染防止のための実践を行う重要性を理解できる 6. 標準予防策・感染経路別予防策の必要性和方法を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当者
第1回	環境調整①：療養生活の環境・病室の環境のアセスメントと調整	講義	矢追 裕子
第2回	環境調整②：ベッド周囲の環境整備	講義	矢追 裕子
第3回	環境調整③：シーツのたたみ方・ベッドメイキング	講義	矢追 裕子
第4回	環境調整④：リネン交換	講義	矢追 裕子
第5回	コミュニケーション技術①	講義	稲葉 由美
第6回	コミュニケーション技術②	講義・GW	稲葉 由美
第7回	コミュニケーション技術③	講義・GW	稲葉 由美
第8回	感染予防に関する技術①：感染防止の基礎知識・標準予防策	講義	稲葉 由美
第9回	感染予防に関する技術②：感染経路別予防策	講義	稲葉 由美
第10回	感染予防に関する技術③：洗浄・消毒・滅菌	講義	稲葉 由美
第11回	感染予防に関する技術④：感染性廃棄物の取り扱い・針刺し防止策	講義	稲葉 由美
第12回	看護にかかわる記録・報告①：看護記録とは・記録、管理における留意点・看護記録の構成	講義・GW	水田 あき
第13回	看護にかかわる記録・報告②：報告	講義・GW	水田 あき
第14回	安全を守る技術	講義・GW	阪本 由美
第15回	試験（60分）・まとめ（30分）	講義・試験	稲葉 由美

評価方法	■定期試験（100 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

令和5年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 基礎・臨床看護技術 第3版
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んてくること（予習30分）。講義後は、該当部分の基礎・臨床看護技術の手順を読み、動画があるものは視聴すること。また、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。（復習60分）

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	山本 桂・矢追裕子・花田匡子	1	1	前期	必修

◇講義概要

人間の基本的欲求に基づく日常生活活動への援助技術を知り、基本的技術を修得する。

◇到達目標

1、生活において姿勢を保ち活動を整える意義と効果的な援助のための看護技術が理解できる
2、睡眠・休息の意義と必要性、安楽・安眠への援助技術が理解できる
3、清潔・衣生活の意義と対象の健康状態に合わせた援助技術が理解できる
4、排泄の意義と、ニーズに応じた援助方法の選択および看護技術が理解できる
5、食事と栄養の意義と必要性、ニーズに応じた援助技術が理解できる
6、電法・マッサージ・部分浴の意義・目的と、健康状態に合わせた援助技術が理解できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	「活動」基本的活動の援助（体位、体位変換）	講義	山本 桂
第2回	「姿勢・体位・活動」体位保持、移動・移乗・移送	講義	山本 桂
第3回	「睡眠・休息」睡眠と休息の援助	講義	山本 桂
第4回	「循環（電法）」体温管理の技術、末梢循環促進のためのケア	講義	山本 桂
第5回	「食事と栄養」①食事援助の基礎知識	講義	山本 桂
第6回	「食事と栄養」②食事介助、摂食・嚥下訓練・口腔ケア	講義	山本 桂
第7回	「食事と栄養」③非経口栄養摂取の援助	講義	山本 桂
第8回	「清潔・衣生活」① 清潔の基礎知識と清潔援助の効果 患者の状態に応じた援助の決定と留意点	講義	花田 匡子
第9回	「清潔・衣生活」②病床での衣生活の援助	講義	花田 匡子
第10回	「清潔・衣生活」③ 入浴・シャワー浴・全身清拭 部分浴（足浴・手浴）	講義	花田 匡子
第11回	「清潔・衣生活」④洗髪・整容	講義	花田 匡子
第12回	「排泄」①自然排尿及び自然排便の基礎技術と介助の実際	講義	矢追 裕子
第13回	「排泄」②導尿（一時的導尿・持続的導尿）	講義	矢追 裕子
第14回	「排泄」③排便を促す援助（浣腸・摘便）、ストーマケア	講義	矢追 裕子
第15回	試験（60分）・まとめ（30分）	講義・試験	山本 桂

評価方法	☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 演習評価（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ その他（ ％）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院. 根拠と自己防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版
参考図書	
留意事項	講義前には当該講義部分の教科書を読んでもくること（予習30分）。講義後は、該当部分の基礎・

令和5年度 看護学科 シラバス

	臨床看護技術の手順を読み、動画があるものは視聴すること。また、当日の概要・ポイントをノートにまとめるなど復習に励むこと。(復習 60 分)
--	---

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅲ 与薬・包帯法・創傷管理・輸血・ 呼吸・診察・検査 (実務経験のある教員等による授業科目)	矢追裕子・山本桂・水田あき	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

診察・検査時の対象に応じた援助の基礎と、医療処置における看護の役割と具体的な方法を学ぶ

◇到達目標

1、診察と検査の目的がわかり、診察、検査を受ける対象への看護技術が理解できる
2、輸血・与薬の目的と意義を理解し、医療安全の視点から安全に実施するための方法と、実施時のアセスメントの視点が理解できる
3、酸素療法・吸引・吸入の意義・目的を理解し、対象に応じた看護の役割とアセスメントの視点を考えることができる
4、包帯法・創傷管理の意義・目的がわかり、看護の必要性が理解できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	呼吸：酸素吸入療法	講義	矢追裕子
第2回	呼吸：吸引（一時的吸引・持続的吸引）	講義	矢追裕子
第3回	呼吸：排痰ケア・吸入・人工呼吸療法	講義	矢追裕子
第4回	診察・検査： 検体検査	講義	水田あき
第5回	診察・検査：生体情報のモニタリング	講義	水田あき
第6回	診察・検査：診察・検査・処置の介助技術、採血	講義	水田あき
第7回	与薬：与薬の基礎知識、薬物療法の意義、看護師の役割	講義	山本桂
第8回	与薬：経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬の援助方法	講義	山本桂
第9回	与薬：注射の基礎知識と援助方法① 皮下注射・筋肉注射・皮内注射	講義	山本桂
第10回	与薬：注射の基礎知識と援助方法② 静脈内注射・輸液ポンプ・シリンジポンプの管理	講義	山本桂
第11回	輸血：輸血の意義・目的・種類・副作用・保存・投与	講義	矢追裕子
第12回	包帯法と創傷の管理：創傷管理の基礎知識	講義	矢追裕子
第13回	包帯法と創傷の管理：包帯法、創傷処置	講義	矢追裕子
第14回	包帯法と創傷の管理：褥創予防（褥創発生のメカニズム）	講義	矢追裕子
第15回	終講試験（45分）まとめ（45分）	試験・ まとめ	山本 桂

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
参考図書	適宜 DVD などを使用します
留意事項	解剖学・生理学ともつなげて学習するように努めてください。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術Ⅳ バイタルサイン・フィジカルアセスメント・救命救急処置・死亡時の看護 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田あき・矢追裕子・加藤若葉	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

対象の健康段階に応じて、的確な観察力や判断力が速やかに看護に活かせる技術の基本的知識を学ぶ

◇到達目標

1. 生命機能の正常と異常を知り、異常の早期発見のアセスメント視点を考えることができる。
2. 生命の危機状態にある対象の特徴を知り、状況に応じた看護技術の必要性が理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	バイタルサインとは	講義	水田あき
第2回	バイタルサインの観察技術（体温・脈拍）	講義	水田あき
第3回	バイタルサインの観察技術（呼吸・血圧）	講義	水田あき
第4回	バイタルサインの観察技術（血圧・意識）	講義	水田あき
第5回	バイタルサインの観察技術（体温・脈拍・呼吸・血圧）	講義	水田あき
第6回	フィジカルアセスメント①脳・脳神経	講義	加藤若葉
第7回	フィジカルアセスメント②筋・骨格系・乳房・生殖器	講義	加藤若葉
第8回	フィジカルアセスメント③肺（呼吸器系）・胸部	講義	加藤若葉
第9回	フィジカルアセスメント④肺（呼吸器系）・胸部	講義	矢追裕子
第10回	フィジカルアセスメント⑤心臓・循環器系	講義	矢追裕子
第11回	フィジカルアセスメント⑥腹部・消化器系・直腸・肛門	講義	矢追裕子
第12回	救急救命処置①一次、二次救急	講義	加藤若葉
第13回	救急救命処置②三次救急	講義	加藤若葉
第14回	死亡時の看護	講義	水田あき
第15回	終講試験（45分）・まとめ（45分）	試験・まとめ	

評価方法	☒ 定期試験（100%） ☐ 実技試験（%） ☐ 演習評価（%） ☐ 小テスト（%） ☐ レポート（%） ☐ その他（%）
------	---

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント メディカルフレンド
参考図書	フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア ※適宜DVD等視覚教材を使用します。
留意事項	解剖学・生理学ともつなげて学習するように努めてください。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術演習Ⅰ (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉由美・山本桂・矢追裕子・花田匡子	1	1	前期	必修

◇講義概要

基礎看護技術を実際に行い、安全性と安楽に考慮した手順を考える能力を修得する

◇到達目標

- 1、安全・安楽を考慮し、看護技術の必要性や対象者に応じた手順を考えることができる
- 2、対象に応じた看護技術を、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	「コミュニケーション技術」	演習	稲葉 由美
第2回	「感染予防策・記録報告」①手指衛生、個人防護用具	演習	稲葉 由美
第3回	「感染予防策・記録報告」②無菌操作	演習	稲葉 由美
第4回	「環境調整」ベッドメイキング	演習	矢追 裕子
第5回	「活動・体位・姿勢」①体位、臥床時の体位変換	演習	山本 桂
第6回	「活動・体位・姿勢」②ベッドから車椅子の移乗・移送	演習	山本 桂
第7回	③ベッドからストレッチャーへの移乗・移送	演習	山本 桂
第8回	「休息・睡眠」睡眠・休息を促す援助、体位保持（ポジショニング）	演習	山本 桂
第9回	「清潔・衣生活」洗髪①	演習	花田 匡子
第10回	「清潔・衣生活」洗髪②	演習	花田 匡子
第11回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換①	演習	花田 匡子
第12回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換②	演習	花田 匡子
第13回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換③	演習	花田 匡子
第14回	「清潔・衣生活」全身清拭と寝衣交換④	演習	花田 匡子
第15回	「排泄」①床上排泄援助（尿器、便器）、オムツ交換	演習	矢追 裕子
第16回	「排泄」②一時的導尿援助と持続的導尿援助の実際	演習	矢追 裕子
第17回	「排泄」③グリセリン浣腸、摘便 ④ストーマケアの援助	演習	矢追 裕子
第18回	「食事と栄養」①食事援助	演習	山本 桂
第19回	「食事と栄養」②口腔ケア・嚥下訓練	演習	山本 桂
第20回	「食事と栄養」③経鼻胃チューブの管理・経管栄養法	演習	山本 桂
第21回	「循環（電法）」温電法、冷電法、マッサージ	演習	山本 桂
第22回	「環境調整」ベッドメイキング 技術試験	試験	矢追 裕子
第23回	「環境調整」ベッドメイキング 技術試験	試験	矢追 裕子

評価方法	☐ 定期試験（ %） ☒ 実技試験（ 100 %）「リネン交換」で50%、「全身清拭と寝衣交換」で各50% ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他
------	--

令和5年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院. 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ 医学書院. 基礎・臨床 看護技術 医学書院 第3版
参考図書	看護がみえる vol.① 基礎看護技術 メディック・メディア 看護がみえる vol.② 基礎看護技術 メディック・メディア
留意事項	演習時の服装と準備物は、担当教員から指示されたもので臨むこと。 「リネン交換」「全身清拭と寝衣交換」の技術試験は各々の試験で6割以上の評価を受けることをもって合格とする。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎看護技術演習Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	水田あき・加茂清美・矢追裕子・ 阪本由美・山本 桂・加藤若葉・中西信之	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護技術の基礎的理論や特質を理解し、疾病・障害をもつ対象に応じた日常生活動作の基本的な援助技術を習得する。

◇到達目標

1. 安全・安楽を考慮し、看護技術の必要性や対象者に応じた手順を考えることができる。
2. 対象に応じた看護技術を、科学的根拠に基づいて安全・安楽に実施できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	バイタルサイン測定①体温・脈拍・呼吸・血圧	演習	水田あき
第2回	バイタルサイン測定②体温測定から報告まで	演習	水田あき
第3回	呼吸：吸引・吸入・酸素療法・体位ドレナージ	演習	矢追裕子
第4回	与薬：薬液の吸い上げ、アンプル・バイアル①	演習	山本桂
第5回	与薬：薬液の吸い上げ、アンプル・バイアル②	演習	山本桂
第6回	与薬：皮下注射・筋肉内注射・輸液管理③	演習	山本桂
第7回	与薬：皮下注射・筋肉内注射・輸液管理④	演習	山本桂
第8回	検査：採血（シュミレーター使用）	演習	水田あき
第9回	包帯法・創傷の管理	演習	矢追裕子
第10回	フィジカルアセスメント①腹部・消化器系・直腸・肛門	演習	加藤若葉
第11回	フィジカルアセスメント②筋・骨格系 ③脳神経系	演習	加藤若葉
第12回	フィジカルアセスメント④肺（呼吸器系）・胸部	演習	矢追裕子
第13回	フィジカルアセスメント⑤心臓・循環器系	演習	矢追裕子
第14回	フィジカルアセスメント⑥乳房・生殖器	演習	矢追裕子
第15回	救命救急処置①一次救急処置（気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫）	演習	中西信之
第16回	救命救急処置②一次救急処置（気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫）	演習	中西信之
第17回	救命救急処置③一次救急処置（小児・乳児の心肺蘇生法）	演習	中西信之
第18回	救命救急処置④一次救急処置 技術試験	演習	中西信之
第19回	救命救急処置④止血法・気道異物除去・その他（45分）	演習	加藤若葉
第20回	救命救急処置⑤二次救急処置（急変時の対応・挿管介助）	演習	加藤若葉
第21回	死亡時の看護	演習	水田あき
第22回	バイタルサイン測定③ 技術試験	実技試験	水田あき
第23回	バイタルサイン測定④ 技術試験	実技試験	水田あき

令和5年度 看護学科 シラバス

評価方法	☐ 定期試験（ %） ■実技試験（ 50 %） ☐ 演習評価（ %）
	☐ 小テスト（ %） ■レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）

教科書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド
参考図書	フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 ※適宜DVD等視覚教材を使用します。
留意事項	演習時の服装と準備物は、担当教員から指示されたもので臨むこと

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床看護推論	外部講師	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

シミュレーション学習法を用いて、専門基礎分野・基礎看護技術で学んだ知識・技術を統合し、判断・対応を学ぶ。

◇到達目標

既習の知識をもとに患者の状態・状況に応じて判断し、確実に援助を実施できる

1. 事例の状況から患者像をイメージし、援助に必要な内容について学習できる
2. 学習した内容を活用し、指定された技術について援助計画を立案できる
3. 看護実践における倫理的態度について実践できる
4. 患者の状態・状況を考慮しながら指定された援助を実施できる
5. 一連のプロセスを振り返り、自己の課題を明確にできる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	講義全体の方法について、グループワークについて	講義	事前レポート作成
第2回	事例について (個人ワーク・グループワーク)	講義・演習	
第3回			
第4回	筆記試験 (45分)	試験	
第5回	試験の解説	講義	
第6回	技術練習	グループ演習	事前レポート提出
第7回	技術練習	グループ演習	
第8回	技術試験	実技試験	振り返りレポート

評価方法	■ 定期試験 (30 %) ■ 実技試験 (60 %) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ■ レポート (10 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学総論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
参考図書	看護技術 看護過程に沿った対象看護 第5版 学研
留意事項	※提出物の期限を確実に守るよう、計画的にすすめること ※各自責任を持って主体的にすすめること

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床看護総論	山本 桂・外部講師	1	1	後期	必修

◇講義概要

【今井】看護の対象となる人々を理解し看護学を基盤とした根拠に基づいた看護実践に役立てるプロセスを学ぶ。 【萱島】ME 機器の安全使用
--

◇到達目標

【今井】1.看護の対象者となる、あらゆる年齢層の人、様々な健康レベルの人々について理解する。 2.具体的な対象者の症状のメカニズムを基盤にアセスメントの視点を学ぶ。 3.治療・検査の基礎知識と看護実践を展開する基本的な思考過程にそって看護援助を学ぶ。 【萱島】事故事例を通して、ME 機器使用の基本を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	ライフサイクルから捉えた看護	講義	山本
第2回	家族の機能、生活と療養の場	講義	山本
第3回	健康状態の経過に基づく看護(急性期)	講義	山本
第4回	健康状態の経過に基づく看護(回復期)	講義	山本
第5回	健康状態の経過に基づく看護(慢性期)	講義	山本
第6回	健康状態の経過に基づく看護(終末期)	講義	山本
第7回	主要な症状を示す対象者への看護(呼吸、循環、栄養)	講義	山本
第8回	主要な症状を示す対象者への看護(排泄、活動と休息、認知と知覚)	講義	山本
第9回	主要な症状を示す対象者への看護(コーピング、安全、安楽)	講義	山本
第10回	事例についてのグループワーク	GW	山本
第11回	ME 機器と安全な使用について 除細動器について	講義	外部講師
第12回	患者監視装置について 心電図モニタ・パルスオキシメータ・カフ・ノーマ・自動血圧計	講義	外部講師
第13回	人工呼吸器の基礎	講義	外部講師
第14回	医療ガス・電気設備について 実機の説明	講義 機器の実際	外部講師
第15回	終講試験【60分】＋まとめ【30分】	試験・まとめ	山本 外部講師

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座 別巻17 臨床看護学総論 医学書院
参考図書	
留意事項	教科書の理解

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護研究 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田あき	2	1	前期	必修

◇講義概要

看護に必要な研究的思考を身につけるために看護研究の基本的な考え方とプロセスを学び、看護の質向上に向けた研究能力の基盤を養う

◇到達目標

1. 看護研究の意義と必要性について理解する
2. 文献検索の方法を知り、実際にテーマに沿って検索できる
3. 研究のプロセスや研究デザイン、文献検討について理解する
4. 研究計画の構成要素を理解し、研究計画書（背景・動機まで）を作成できる
5. 研究論文のまとめ方を理解する
6. ケーススタディの進め方を理解できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	看護研究とは	講義	
第2回	研究に必要な情報の探索と吟味（情報処理室）	演習	
第3回	文献検索・文献クリティーク	講義	
第4回	研究における倫理的配慮	講義	
第5回	研究デザインと方法	講義	
第6回	データ収集	講義	
第7回	データ分析・実際にインタビュー	講義・演習	
第8回	実際にデータ分析・まとめ	演習	
第9回	まとめ・発表・次の研究テーマを考える	演習	
第10回	文献の整理、質問紙の作成	演習	
第11回	データの収集・分析を実際に行う	演習	
第12回	研究成果をまとめる①	演習	
第13回	研究結果をまとめる②	演習	
第14回	研究結果を伝える（発表）	演習	
第15回	終講試験（60分）・まとめ（30分）	試験/まとめ	

評価方法	☐ 定期試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	看護研究、医学書院、2022
参考図書	
留意事項	講義前には、教科書の該当ページを読んでおくこと。 講義後はレジュメとまとめプリントを学習すること。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護研究演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	3	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護に必要な研究的思考を身につけるために看護研究の基本的な考え方とプロセスを学び、看護の質向上に向けた研究能力の基盤を養う

◇到達目標

1. 看護実践を振り返り、自分の課題について必要なポイントをふまえた研究計画の構成要素を理解し、研究計画書（背景・動機まで）を作成できる
2. 倫理的配慮を考えることができる
3. 文献検討を行い多様な考え方を学ぶことができる
4. 研究のプロセスを理解することができる
5. 作成した研究計画に沿って課題を探究し、ケーススタディを作成できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	テーマの決定	講義	
第2回	関連文献の検索とクリティーク	演習	
第3回	研究計画の作成	演習	
第4回	ケーススタディの実施	演習	
第5回	ケーススタディの実施	演習	
第6回	ケーススタディの実施	演習	
第7回	発表スライドの作成のポイント	講義・演習	
第8回	発表原稿の作成（45分）	講義・演習	

評価方法	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 100 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	看護研究、医学書院、2021
参考図書	松本、森田編、看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方、講談社、2015 高橋監修、看護学生のためのケーススタディ、メヂカルフレンド社、2016
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域看護論	外部講師	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

地域のなかでの暮らしや、システムについて知り、地域の人々の暮らしを支える看護について考える。
--

◇到達目標

1. 学校の所在する「地域」に目を向けて、地域の特徴を理解する。
2. 健康障害が生じて、安心して地域で暮らし続けるための課題を考える。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	人々の暮らしの理解	講義	
第2回	暮らしの基盤となる地域	演習 グループワーク	
第3回	地域包括ケアシステム及び家族	講義	
第4回	地域・在宅看護の対象	講義	
第5回	暮らしを支える看護の役割	講義	
第6回	学校の所在する地域を理解する	演習 グループワーク	
第7回	地域看護の実践の場及び多職種・関連制度	講義	
第8回	終講試験（45分）	試験	

評価方法	☒ 定期試験（100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 第6版
参考図書	
留意事項	授業前に該当範囲の予習し、分らない言葉を調べ学習（30分）をする。授業後、レジメの復習をして学習内容をノートにまとめる又は講義内で指定した課題に取り組む（30分）

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域看護方法論	外部講師	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

地域・在宅看護に欠かせない視点とアプローチ方法を学び、地域の人々との交流による健康づくり活動に取り組む。また、暮らしを支える多職種との連携・協働について考える。

◇到達目標

1. 地域・在宅看護実践において重要な視点が分かる。
2. 地域・在宅看護実践に欠かせない要素を言える。
3. 地域・在宅看護実践の場における多職種連携について考えることができる。
4. 地域の人々との交流による健康づくり活動に取り組むことができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	地域・在宅看護に関わる療養の場 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	講義	
第2回	暮らしの環境を整える看護	講義・演習	
第3回	地域での暮らしにおけるリスクの理解 地域での暮らしにおける災害対策	GW	
第4回	様々な職種で支える地域での暮らし 多職種との連携・協働を考える。	講義・GW	
第5回	学校の所在する地域の人々との交流による健康づくり活動	講義・GW	
第6回	学校の所在する地域の人々との交流による健康づくり活動	演習	
第7回	学校の所在する地域の人々との交流による健康づくり活動 健康づくり活動の実施（北福祉センター）	演習	
第8回	健康づくり活動の評価・まとめ 健康づくり活動の評価・修正（45分）	演習	

評価方法	☐ 定期試験（ %）	☐ 実技試験（ %）	☒ 演習評価（ 40 %）
	☐ 小テスト（ %）	☒ レポート（ 60 %）	☐ その他（ %）

教科書	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 第6版
	医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の基盤 第6版
参考図書	
留意事項	地域看護論の履修必須

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護概論	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

少子高齢化が進む中で、地域医療構想の実現や地域ケアシステムの構築に向けて医療提供の整備が行われている。
看護の対象が生活する地域と環境において、支援の方法や専門職としての役割を学ぶ。

◇到達目標

- 1.地域の支援システムを学び、多様な場において多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供することの必要性を理解できる。
- 2.対象を生活者としてとらえ、個別性を尊重し、生き方や健康回復を支える専門職として役割を理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	地域・在宅看護の考える方・人々の暮らしと地域・在宅看護	講義	一部分 GW
第2回	暮らしの基盤としての地域の理解	講義	
第3回	地域・在宅看護の対象	講義	
第4回	地域における暮らしを支える看護	講義	
第5回	地域・在宅看護実践の場と連携	講義	
第6回	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 介護保険制度	講義	
第7回	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 訪問看護制度	講義	
第8回	総括 定期試験	講義・試験	

評価方法	☐ 定期試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	系統看護学講座専門分野 地域・在宅看護の基盤 医書院河原加代子 2022
参考図書	系統看護学講座統合 在宅看護 医学書院 2022
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護方法論Ⅰ－Ⅰ	外部講師	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

教育目標	地域社会で生活する対象の健康回復・保持・増進に必要な在宅看護あり方を習得する。
授業概要	在宅看護展開の基礎と支援体制や権利保障について学び、福祉用具の見学をする。

◇到達目標

到達目標	療養者の日常生活を「生活行為」として総合的にアセスメントし、対象がその人らしい生活をするための援助やマネジメントを学ぶ。
------	--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	在宅看護過程の展開ポイント	講 義	
第2回	看護過程の特徴・情報とアセスメント	講 義	
第3回	環境に対するアセスメント	講 義	
第4回	社会資源に対するアセスメント	講 義	
第5回	介護力・経済力に対するアセスメント	演 習	
第6回	在宅看護の目標・計画	講 義	
第7回	実施と評価	講 義	
第8回	在宅看護の標準化の取り組み	講 義	
第9回	多職種との連携	講 義	
第10回	入退院における医療機関と訪問看護の連携	講 義	
第11回	在宅における安全性	講 義	
第12回	災害時の看護・対象者の権利保障	講 義	
第13回	在宅福祉用具見学	講 義	
第14回	〃 レポート	講 義	
第15回	まとめ（30分）・終講試験（60分）	講 義・まとめ	

評価方法	☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	系統看護学，統合分野，在宅看護論，医学書院，河原加代子 2021
参考図書	教材：訪問看護ビデオシリーズ
留意事項	福祉住環境施設の見学で，福祉用具，福祉住環境についての学習をする

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護方法論Ⅰー2	外部講師	2	1	後期	必修

◇講義概要

地域社会で生活する対象の健康回復、保持、増進に必要な在宅看護の技術や方法を習得する。

◇到達目標

- 1、対象の日常生活を「生活行為」として総合的にアセスメントし、その人らしい生活を送るために必要なマネジメントや援助の方法を理解できる。
- 2、在宅における日常生活動作や認知症・終末期看護に関連するアセスメントや援助技術を理解できる。
- 3、在宅での医療技術について理解できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	在宅医療技術①褥瘡とその予防	講義	
第2回	②膀胱留置カテーテルを必要とする対象者への援助技術	講義	
第3回	③ストーマを必要とする対象者への援助技術	講義	
第4回	④経管栄養や在宅中心静脈栄養を必要とする対象者への援助技術	講義	
第5回	生活行動に必要な分析と介助方法	講義	
第6回	移動・移乗に関する在宅看護技術	講義	
第7回	食生活・嚥下に関する在宅看護技術	講義	
第8回	排泄に関する在宅看護技術	講義	
第9回	清潔に関する在宅看護技術	講義	
第10回	呼吸機能・在宅酸素療法（HOT）を必要とする対象者への援助技術	講義	
第11回	非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）や在宅呼吸療法（HMV）の援助技術	講義	
第12回	在宅看護における認知症のアセスメントと援助技術	講義	
第13回	疼痛緩和を必要とする対象者への援助技術	講義	
第14回	在宅における終末期看護	講義	
第15回	定期試験（60分）・まとめ（30分）	講義・試験	

評価方法	☐ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ 10 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座統合分野,在宅看護論,医学書院,河原加代子他,2018
参考図書	写真でわかる訪問看護アドバンス,インターメディカ,押川真喜子,2016 帝人在宅医療 KK のビデオ
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
在宅看護方法論Ⅱ	外部講師	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

在宅看護の方法論は、地域社会で生活する対象の健康回復,保持,増進に必要な在宅看護の技術や方法を習得する。

◇到達目標

- 1.対象の日常生活を「生活行為」として総合的にアセスメントし、その人らしい生活をするために必要なマネージメントや援助の方法を理解できる。
- 2.在宅看護活動の実際を、事例を通して理解できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	在宅看護介入時期別の特徴 在宅療養移行期	講義	
第2回	在宅療養安定期, 急性増悪期, 終末期, 脳卒中の在宅療養導入の事例	講義	
第3回	パーキンソン病・認知症療養者に対する在宅看護	講義	
第4回	小児・ALS で人工呼吸器を実施する在宅看護	講義	
第5回	COPD・独居の療養者・統合失調症に対する在宅看護	講義	
第6回	事例展開 グループワーク	講義・GW	
第7回	事例展開 グループワークと演習	GW	
第8回	定期試験(30分) 総括(30分)	試験 講義	

評価方法	☒ 定期試験 (50 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (50 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (50 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座統合分野, 在宅看護論, 医学書院, 河原加代子他, 2022
参考図書	在宅看護論—地域療養を支えるケア, メディカ出版,2022 他
留意事項	演習は、グループ事例の計画に沿った技術の実施や実習記録についての学びを深める。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	加茂 清美	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

成人期の人々の発達における特徴とその課題、健康上の要求を理解し、健康に影響する環境の諸因子および疾病などを学習し、個人とその家族の健康上の問題解決に必要な看護の方法と実践力を修得する。

◇到達目標

1. 成人期にある人々を発達段階、健康と生活・社会・環境の視点から理解する。
2. 成人に対する看護アプローチの基本として、アンドラゴジー・人間関係・集団力学・看護倫理・意思決定・家族支援を理解する。
3. 成人の健康レベルに対応した看護の基本について理解する。
4. 成人の健康生活を回復・維持・促進するための看護技術を理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	成人期にある人の理解 1) ライフサイクルにおける成人期 2) 成人期の成長発達・発達課題	講義	
第2回	成人各期の特徴・健康問題	講義	
第3回	成人の生活	グループワーク（発表）	
第4回	健康を脅かす要因と看護 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 健康生活の破綻・障害の受容と生活	講義 動画視聴	レポート 提出
第5回	生活習慣に関連する健康問題と対策 ワークライフバランスに関連する健康問題と対策	講義	
第6回	成人の看護に有用な概念 ①アンドラゴジー ②エンパワメント ③病みの軌跡	講義	
第7回	④セルフケア ⑤危機 ⑥適応 ⑦自己効力	グループワーク（発表）	
第8回	まとめ（30分）・終講試験（60分）	講義・試験	

評価方法	■定期試験（ 80% ） □実技試験（ % ） □演習評価（ % ） □小テスト（ % ） ■レポート（ 20 % ） □その他（ % ）
------	--

教科書	系統看護学講座 成人看護学総論
参考図書	授業の中で紹介します
留意事項	*課題に対する発表・レポートの提出と筆記試験があります。

令和 5 年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護方法論Ⅰ（急性期） （実務経験のある教員等による授業科目）	加茂清美	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

急激な健康破綻をきたした健康状態にある患者の身体的・心理的・社会的に及ぼす影響を理解し、生命の維持や健康の回復に必要な看護技術を学ぶ。また、治療に伴う患者や家族の痛み、苦痛を理解し、苦痛の緩和と危機状態からの脱するための援助のあり方を学ぶ

◇到達目標

1. 急性期にある対象の理解ができる。
2. 急性期にある患者の看護の役割と方法について理解できる。
3. 主要な急性期にある患者の看護が理解できる。
4. 重症患者のアセスメントのポイントがわかる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	急性期にある対象の特徴と概念 （急性期とは～看護援助に必要な概念）	講義	
第 2 回	急性期の看護活動	講義	
第 3 回	急性呼吸機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な呼吸機能障害のある患者の看護）	講義	
第 4 回	急性呼吸機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な呼吸機能障害のある患者の看護）	講義	
第 5 回	急性循環器障害のある患者の看護 （循環機能障害の種類・病態生理、循環機能のアセスメント）	講義	
第 6 回	急性循環器障害のある患者の看護 （循環機能障害の種類・病態生理、循環機能のアセスメント）	講義	
第 7 回	急性循環器障害のある患者の看護 （循環機能障害の患者の看護）	演習（実習室）	
第 8 回	急性循環器障害のある患者の看護 （循環機能障害の患者の看護）	演習（実習室）	
第 9 回	急性の栄養摂取・消化器機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な栄養摂取・消化機能障害のある患者の看護） 急性の生体防御機能障害・感染のある患者の看護 （基礎知識～代表的な生体防御機能障害・感染のある患者の看護）	講義	
第 10 回	急性の脳機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な脳機能障害のある患者の看護）	講義	
第 11 回	急性の排泄機能障害のある患者の看護 （基礎知識～代表的な排泄機能障害のある患者の看護）	演習	
第 12 回	事例に沿って急性期看護を考える（病態関連図の作成による対象理解） 個人ワーク	演習	

令和 5 年度 看護学科 シラバス

第 13 回	事例に沿って急性期看護を考える（病態関連図の作成による対象理解） グループワーク	演習	
第 14 回	事例に沿って急性期看護を考える（病態関連図の作成による対象理解） グループワーク発表	演習	
第 15 回	終講試験（60 分）・まとめ（30 分）	講義・試験	

評価方法	終講試験（ 90 %）・演習（ 個人課題 10% ） 小テスト（ 0%）
------	---

教科書	系統看護学講座 クリティカルケア看護学 医学書院
参考図書	
留意事項	授業は、教科書、資料を中心に行いますので、必ず持参してください 授業の内容を深めるにあたり、予習復習を行い講義に参加してください 実習室での演習は、事前課題と事後課題 2 つ提出があります。 レポートは返却するので、それらを活用して理解を深めること 事例に沿った看護演習に関しては、実習記録を使用して病態関連図を作成します 割り当てられた疾患に関する病態関連図を調べること（予習 60 分）

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅱ 回復期（セルフマネジメント） （実務経験のある教員等による授業科目）	加藤 若葉	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

セルフケアの低下状態にある成人について理解し、セルフケアの再獲得を支援し、QOLの視点を踏まえた看護を習得する。

◇到達目標

1. リハビリテーション看護の考えと回復期の患者の看護援助を理解する。
2. 成人期にある患者及びその家族の特徴や健康問題の治療過程・回復過程を理解する。
3. 健康レベルに応じた援助を行うために必要な理論と方法を理解する。
4. 障害を受容し、QOLの獲得に向けた看護が理解できる。
5. 成人期にある患者と、家族看護のあり方、社会資源の活用方法が理解できる。
6. 退院支援を含めた継続看護について学ぶ。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	アレルギー 膠原病 感染症疾患のある患者の看護（アレルギー、膠原病の概要、特徴～治療、症状・疾患の理解）	講義	
第2回	アレルギー 膠原病 感染症疾患のある患者の看護（感染症の症状・検査、診断～症状看護、感染予防）	講義	
第3回	リハビリテーションの考え方と回復期患者の看護援助の特徴 脳・神経疾患のある患者の看護（脳・神経の構造、機能、検査）	講義	
第4回	脳・神経疾患のある患者の看護 ・機能障害を持ちながら生活する人の看護について考える（前） ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える ・継続看護について考える ・まとめ問題配布	講義 グループワーク①	
第5回	脳・神経疾患のある患者の看護 ・機能障害を持ちながら生活する人の看護について考える（中） ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える ・継続看護について考える	講義 グループワーク②	
第6回	脳・神経疾患のある患者の看護（疾患の理解～患者の看護） 脳・神経疾患のある患者の看護 ・機能障害を持ちながら生活する人の看護について考える（後） ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える ・継続看護について考える	講義 グループワーク③	
第7回	血液・造血器疾患のある患者の看護（概要、特徴～治療の種類）	講義	
第8回	血液・造血器疾患のある患者の看護（経過別看護～血友病）	講義	小テスト (1)
第9回	運動器疾患のある患者の看護（運動器の構造、機能、診断と検査、運動器疾患の症状と病態）	講義	

令和5年度 看護学科 シラバス

第10回	運動器疾患のある患者の看護 ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える（前）	講義 グループワーク④	
第11回	運動器疾患のある患者の看護 ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える（中）	講義 グループワーク⑤	
第12回	運動器疾患のある患者の看護 ・事例をもとに症状のアセスメントとその看護を考える（後） ・まとめ問題配布	講義 グループワーク⑥	
第13回	内分泌・代謝疾患のある患者の看護（内分泌・代謝器官の構造と機能～疾患の病態生理）	講義	小テスト （2）
第14回	内分泌・代謝疾患のある患者の看護（検査、疾患の理解～看護）	講義	
第15回	終講試験（60分）・まとめ解説（30分：試験後に）	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験（60％） ☐ 実技試験（ ）％ ☒ 演習（30％） ☒ 小テスト2回分（10％） ☐ レポート（ ）％ ☐ その他（ ）％
------	--

教科書	*医学書院 系統看護学講座 成人看護学（血液・造血器、運動器、アレルギー・膠原病・感染症、内分泌・代謝、脳・神経）
参考図書	*医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 *ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 *看護診断ハンドブック *疾患別看護過程 医学書院
留意事項	*講義テーマに従い、必ず教科書を持参してください。教科書を中心に講義を進めていきます。 *まとめ問題や演習の際に抗議のレジュメが必要です。毎回ファイリングして講義に持参すること。 *後期の授業ではグループワークの時間を多くとります。 ➡グループワークでは参加姿勢及び提出物について確認し、評価点に加えます。 *感染の事情により、グループワークが個人ワークになる可能性があります。 *進行に合わせた小テストを2回実施します。それも評価に加えます。 *終講試験後のまとめ解説の時間では、各回のレジュメと各回のまとめ問題での振り返りを行います。各自ファイリングしたものを必ず持参すること。 *事前学習：病態生理の復習をしっかりとってください。 *進行状況により、内容が変更になる場合があります。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅲ 回復期（セルフマネジメント）	加藤若葉	2	1	前期	必修

◇講義概要

セルフマネジメントとその概念について理解し、対象者が主体的に療養生活を送るために必要な看護援助を学習する。疾患や症状コントロールのための看護を理解する。

◇到達目標

1. 循環機能障害のある患者の看護援助を理解する。
2. 呼吸機能障害のある患者の看護援助を理解する。
3. 肝機能障害、消化・吸収障害のある患者の看護援助を理解する。
4. 人々が疾患を受容し、生涯にわたり自己管理ができるような援助生活を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	循環機能障害をもつ患者の看護 1) 心筋梗塞の患者の看護 (アセスメント、検査・治療に伴う看護、セルフマネジメントに向けた看護)	講義	
第2回	2) 心臓カテーテル検査と検査前・中・後の看護	講義	
第3回	3) ペースメーカーを装着する患者の看護	講義	
第4回	4) 心臓リハビリテーションと日常生活指導	講義・演習	
第5回	5) 心臓リハビリテーションと日常生活指導	演習	
第6回	呼吸機能障害をもつ患者の看護 (アセスメント、検査・治療に伴う看護、セルフマネジメントに向けた看護)	講義	
第7回	1) 肺がん患者の看護 検査・治療（外科療法・化学療法・放射線療法）	講義	
第8回	2) 肺がん患者の看護 アセスメント・主な症状に対する看護	講義	
第9回	3) 慢性閉塞性肺疾患の患者の看護	講義	
第10回	4) 在宅酸素療法を行う患者の看護	講義	
第11回	1) 肝機能障害をもつ患者の看護 急性・慢性肝炎患者の看護（インターフェロン療法）	講義	
第12回	2) 肝機能障害のある患者の看護（肝硬変）（肝がん）肝生検	講義	
第13回	消化吸収機能障害のある患者の看護 (アセスメント、検査・治療に伴う看護、セルフマネジメントに向けた看護) 1) 胃・十二指腸潰瘍のある患者の看護	講義	
第14回	2) 胃がんのある患者の看護	講義	
第15回	まとめ（30分 試験前に）・終講試験（60分）	講義・試験	

令和5年度 看護学科 シラバス

評価方法	■定期試験（ 90 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 10 %）
	□小テスト（ %） □レポート（ %） □その他（ %）

教科書	*スーベルヒロカワ 成人看護学 慢性期看護論
	*医学書院 系統看護学講座 成人看護学（呼吸器、循環器、消化器）
参考図書	
留意事項	*講義テーマに従い、必ず教科書を持参してください。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅳ（慢性期）	加藤 若葉	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

慢性的な健康問題をもつ成人期の対象者を理解し、対象者が主体的に療養生活を送るために必要な看護援助を学習する。疾患や症状コントロールのための看護を理解する。

◇到達目標

1. 慢性期看護の考え方とセルフマネジメントを推進する看護援助を理解する。
2. 慢性期にある成人の身体的、精神的、社会的特徴が理解する。
3. 慢性期にある成人が疾患を受容し、生涯にわたり自己管理ができるような援助生活を理解する。
4. 慢性期の患者への生活指導の事例展開ができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と理解	講義	
第2回	糖代謝障害のある患者の看護 1) 糖尿病のある患者の看護 (検査・治療に伴う看護)	講義	
第3回	2) 糖尿病のある患者の看護 (アセスメント、主な症状に対する看護)	講義	
第4回	3) 糖尿病のある患者の看護 (セルフマネジメントとケア) ①食事・運動療法の指導 ②合併症予防と生活指導	講義 グループワーク	
第5回	腎機能障害のある患者の看護 1) 腎不全のある患者の看護 (検査・治療に伴う看護)	講義	
第6回	2) 腎不全のある患者の看護 (アセスメント・主な症状に対する看護)	講義	
第7回	3) 腎不全のある患者の看護 (セルフマネジメントとケア・ 透析患者のセルフマネジメント)	講義 グループワーク	
第8回	終講試験 (45 分)	試験	

評価方法	■定期試験 (80 %) □実技試験 (%) ■演習評価 (20 %) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

令和5年度 看護学科 シラバス

教科書	*医学書院 系統看護学講座 成人看護学（腎・泌尿器、内分泌・代謝、）
参考図書	*スーベルヒロカワ 成人看護学 慢性期看護論
留意事項	*講義テーマに従い、必ず教科書を持参してください。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人看護学方法論Ⅴ (ターミナルケア)	外部講師	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

ターミナル期にある対象者や家族の援助方法を習得する。

◇到達目標

1. ターミナル期にある成人の身体的、精神的、社会的特徴を理解する。 4. ターミナル期にある人々の治療や緩和ケアを理解し、心理的支援方法を理解する。 5. ターミナル期にある対象とその家族のケアについて理解する。 4. 看取りのケアについて理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ターミナルケア・緩和ケアの考え方 全人的苦痛への理解	講義	
第2回	ターミナル期の身体的苦痛と症状マネジメント	講義	
第3回	予期悲嘆への援助とスピリチュアルペイン	講義	
第4回	スピリチュアルケアと援助的コミュニケーション	講義	
第5回	がん看護 (手術療法・放射線療法・化学療法)	講義	
第6回	ターミナル期にある患者の看護 事例展開	講義 グループワーク	
第7回	看取りのケア	講義 グループワーク	
第8回	終講試験 (45分)	試験	

評価方法	■定期試験 (80 %) □実技試験 (%) ■演習評価 (20 %) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	①ヌーベルヒロカワ 成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ②医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 ③医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護学概論	阪本 由美	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

高齢者を取り巻く環境、加齢に伴う身体・心理・社会的変化、高齢者の健康障害とそれに伴う諸問題について理解するとともに、高齢者看護の基本的視点を習得する。

◇到達目標

1. ライフサイクルからみた高齢期の特徴、高齢期の発達課題について説明できる。
2. 加齢に伴う身体面・心理面・社会面での機能・役割の変化を説明できる。
3. わが国の人口高齢化、高齢者の暮らしと健康状態について、その特徴を説明できる。
4. 高齢者に対する保健医療福祉システムについて、概要とサービス内容を理解できる。
5. 高齢者の権利擁護のための制度について理解できる。
6. 老年看護実践における基本的理念を理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	老いとは・老年期の定義と発達課題	講義	
第2回	高齢社会の統計から見える時代背景と現代の高齢者の保険医療福祉	講義	
第3回	身体の高齢変化とアセスメント	講義	
第4回	高齢者の擬似体験を通して日常生活動作と高齢者を取り巻く環境について理解する	講義	体験学習
第5回	高齢者の擬似体験を通して日常生活動作と高齢者を取り巻く環境について理解する	講義	体験学習
第6回	高齢者の権利擁護	講義	
第7回	老年看護の成り立ち	講義	
第8回	まとめ (30 分)・終講試験 (60 分)	講義・試験	

評価方法	☒ 定期試験 (80%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	系統看護学講座 老年看護学概論
参考図書	
留意事項	＊教科書を持参してください。教科書中心に講義を進めます。 ＊課題に対するレポートを提出とグループワークがあります。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護方法論Ⅰ - 1 (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	前期	必修

◇講義概要

教育目的	加齢に伴う障害や疾病をもつ高齢者の生命維持・健康回復促進のための看護の基礎知識・技術を習得する。
授業概要	老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する。

◇到達目標

1. 高齢者の生活機能や生理的特徴を理解する。
2. 高齢者特有の症状の現れ方や罹患しやすい疾病に関連づけて学び、高齢者の QOL を高める具体的な看護の知識・技術を理解する。
3. 生活・療養の場における高齢者の看護を理解する。
4. 高齢者のリスクマネジメントを理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	高齢者の生活機能を整える看護 日常生活を支える基本的活動（転倒のアセスメントと看護）	講 義	
第2回	日常生活を支える基本的活動（廃用症候群のアセスメントと看護）	講 義	
第3回	食事・食生活と看護	講 義	
第4回	排泄と清潔の看護	講 義	
第5回	高齢者の生活リズムとコミュニケーション	講 義	
第6回	健康逸脱からの回復を促す看護 症候のアセスメントと看護（発熱）	講 義	
第7回	健康逸脱からの回復を促す看護 症候のアセスメントと看護（痛み・掻痒）	講 義	
第8回	症候のアセスメントと看護（脱水・浮腫・倦怠感）	講 義	
第9回	認知機能障害のある高齢者の看護（うつ・せん妄・認知症）	講 義	
第10回	治療を必要とする高齢者の看護（健康の維持と介護予防）	講 義	
第11回	治療を必要とする高齢者の看護（検査・手術・リハビリテーション） エンドオブライフケア	講 義	
第12回	生活・療養の場における看護（在宅高齢者への看護）	講 義	
第13回	高齢者のリスクマネジメント（高齢者と医療安全・救命救急）	講 義	
第14回	高齢者のリスクマネジメント（高齢者と災害）	講 義	
第15回	まとめ 終講テスト	講 義	

評価方法	☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ 10 %）
------	---

教科書	系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学、医学書院。 系統看護学講座、専門Ⅱ、老年看護学 病態・疾患論、医学書院
参考図書	授業の中で、必要に応じて提示します
留意事項	授業前に該当範囲の予習（テキスト学習）30分をすること。授業後、レジュメ復習、小テストのやり直し（30分）をすること。小テストのやり直しは、適宜提出を指示する。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護学方法論Ⅰ－Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	阪本 由美	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

老化による障害や疾病を持つ高齢者の生命維持、健康維持のための看護の必要性を判断し、実践の方法を習得する

◇到達目標

1. 高齢者の疾病・障害の特徴を理解する
2. 加齢変化と高齢者に多い疾患と治療を関連づけて学び、具体的看護の知識・技術を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	老年看護に求められるものとは（高齢社会の現状・高齢者医療の現状）	講義	
第2回	高齢者の生理的特徴（老化と寿命・身体的変化）	講義	
第3回	老年症候群の特徴（各器官の生理的变化）	講義	
第4回	認知症の概念、症状と診断基準、治療について	講義	
第5回	高齢者のフィジカルアセスメント（CGAとは、方法と理解）	講義	
第6回	高齢者のフィジカルアセスメント（方法と注意点）	講義	
第7回	高齢者に起こる脳血管疾患（脳卒中のタイプと病態、治療）	講義	
第8回	高齢者に起こる脳血管疾患（パーキンソン病）うつ・せん妄	講義	
第9回	高齢者にみられる疾患の特徴（循環器）	講義	
第10回	高齢者にみられる疾患の特徴（呼吸器）	講義	
第11回	高齢者にみられる疾患の特徴（運動器）	講義	
第12回	高齢者にみられる疾患の特徴（皮膚疾患、眼科疾患）	講義	
第13回	高齢者にみられる疾患の特徴（耳鼻、歯、口腔・感染症）	講義	
第14回	高齢者と薬・高齢者のリハビリテーションについて	講義	
第15回	まとめ 終講試験	講義	

評価方法	☒ 定期試験（ 100% ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 演習評価（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☐ その他（ % ）
------	--

教科書	系統看護学講座：専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座：専門分野Ⅱ 老年看護 病態、疾患論
参考図書	授業の中で紹介します
留意事項	＊教科書を持参してください。教科書中心に講義を進めます。 ＊授業の進行に合わせた小テストを適宜実施します。＊グループワークは適宜行います。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
老年看護方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	坂本 洋子	2	1	後期	必修

◇講義概要

高齢者における看護過程の考え方を理解し、事例を用いて看護過程を展開し、高齢者を多方面から理解・把握し、看護を行うことができる能力を習得する。

◇到達目標

- (1) 高齢者における看護過程の考え方を理解する。
- (2) ゴードンによる機能的健康パターンと NANDAI を用いた老年期の看護過程の展開を理解する。
- (4) 患者事例に対して、個別またはグループで看護過程を展開できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	事例による看護過程の展開 高齢者における看護過程の概念	講 義	
第2回	老年看護過程演習	演 習	
第3回	老年看護過程演習	演 習	
第4回	老年看護過程演習	演 習	
第5回	老年看護過程演習	演 習	
第6回	老年看護過程演習	演 習	
第7回	老年看護過程演習	演 習	
第8回	老年看護過程演習	演 習	

評価方法	☐ 定期試験 (30 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (60 %) ☒ その他 (出席・演習態度 10 %)
------	---

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論 医学書院
参考図書	生活機能から見た老年看護過程、山田律子他、医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護学概論	外部講師	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

子どもと家族を中心とするケアの理念に基づき、対象の尊厳・尊重を保障することを基本に学ぶ。また、小児各期における成長・発達の特徴を理解し必要な看護について学修する。

◇到達目標

1. 現在の子どもと家族の概況や倫理的視点から、小児看護の役割と課題を学ぶ。
2. 成長・発達の基本的知識とそれを学ぶ意義について学習する。
3. 小児の栄養の特徴と看護について学ぶ。
4. 各期の子どもの成長・発達、健康、家族、看護について学習する。
5. 家族の特徴と家族アセスメントの基本的知識を学習する。
6. 子どもと家族を取り巻く福祉・保健・医療の現状について学習する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1章 小児看護の特徴と理念 A 小児看護の目ざすところ B 小児と家族の諸統計 C 小児看護の変遷 D 小児看護における倫理 E 小児看護の課題	講義	
第2回	第2章 子どもの成長・発達 A 成長・発達とは B 成長・発達の進み方 C 成長・発達に影響する因子 D 成長の評価 E 発達の評価	講義	
第3回	第3章 新生児・乳児 A 新生児 ① A 新生児 ② B 乳児 ① B 乳児 ②	講義	
第4回	第4章 幼児・学童 A 幼児 ① A 幼児 ② B 学童	講義	
第5回	第5章 思春期・青年期の子ども	講義	
第6回	第6章 家族の特徴とアセスメント	講義	
第7回	第7章 子どもと家族を取り巻く社会 A 児童福祉 B 母子保健 C 医療費の支援 D 予防接種 E 学校保健 F 食育 G 特別支援教育 H 臓器移植法	講義	
第8回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	■定期試験 (95 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト () □レポート (%) ■その他 (授業態度 5 %)
------	--

令和 5 年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論. 医学書院
参考図書	国民衛生の動向(2021～2022)
留意事項	授業計画を参考に予習・復習をすること。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護方法論Ⅰ－1	外部講師	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

小児看護学概論の内容をふまえ、病気・障害を持つ子どもと家族を取り巻く環境や生活の場、疾病の経過の特徴を理解し、子どものアセスメント、症状別看護、検査・処置の基本的知識・技術を習得する。

◇到達目標

1. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護を理解する。
2. 子どものアセスメントに必要な基本的知識・技術を習得する。
3. 子どもの基本的特性を理解し、症状のアセスメントと看護を習得する。
4. 子どもに特有な検査・処置の基本的知識・技術を習得する。
5. 障害児看護および子どもの虐待の看護についての基礎的知識を習得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1章 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 第2章 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護①	講義	
第2回	第2章 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護② 第3章 子どもにおける疾病の経過と看護①	講義	
第3回	第3章 子どもにおける疾病の経過と看護②	講義	
第4回	第4章 子どものアセスメント①	講義	
第5回	第4章 子どものアセスメント②	講義	
第6回	第4章 子どものアセスメント③	講義	
第7回	第5章 症状を示す子どもの看護①	講義	
第8回	第5章 症状を示す子どもの看護②	講義	
第9回	第5章 症状を示す子どもの看護③	講義	
第10回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護①	講義	
第11回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護②	講義	
第12回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護③	講義	
第13回	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護④ 第7章 障害のある子どもと家族の看護①	講義	
第14回	第7章 障害のある子どもと家族の看護②	講義	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験 (95 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト () ☐ レポート (%) ☒ その他 (授業態度 5%)
------	--

令和5年度 看護学科 シラバス

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論. 医学書院
参考図書	新体系 看護学全書 小児看護学②
留意事項	授業計画を参考に予習・復習をすること。

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護方法論Ⅰ・2	市村 由美子	2	1	後期	必修

◇講義概要

次代を担う子どもの成長、発達を学び、小児看護の理解を深める。
小児特有の病態や事故、外傷等を習得する。

◇到達目標

成長発達段階を学び、小児期に特有な看護実践を習得する。小児特有の疾患、病態、事故、外傷等を学び、エビデンスに基づいた看護を行う。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	小児看護の特徴と理念	講義	
第2回	子どもの成長、発達	講義	
第3回	新生児、乳児期について	講義	
第4回	幼児・学童 思春期・青年期について	講義	
第5回	家族の特徴・アセスメント・精神疾患看護	講義	
第6回	子どもと家族を取り巻く社会	講義	
第7回	病気、障害を持つ子どもと家族の看護	講義	
第8回	病気、障害を持つ子どもと家族の看護	講義	
第9回	染色体異常、先天異常と看護	講義	
第10回	代謝疾患、免疫疾患看護	講義	
第11回	気管支喘息の子どもの看護	講義	
第12回	呼吸器疾患、循環器疾患看護	講義	
第13回	血液・造血器疾患看護	講義	
第14回	腎・泌尿器科疾患看護、運動器疾患看護	講義	
第15回	終講試験【60分】まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験 (90%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト () ☐ レポート (%) ☒ その他 (10 %)
------	---

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護総論
参考図書	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社

令和5年度 看護学科 シラバス

留意事項	授業計画を参考に、予習・復習をしておくこと。 レポートについては、初講時にオリエンテーション
------	---

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児看護方法論 II	外部講師	2	1	後期	必修

◇講義概要

小児の成長・発達を理解した上で、健康障害をもつ子どもと家族が健全な日常生活が送れるように、小児の特有な病態・生理を理解し看護援助と具体的援助技術を習得する。

◇到達目標

- (1) 小児各期の特有な疾患と看護の知識・技術を理解する。
- (2) 小児看護師の役割を学び、小児の発達に応じた看護援助の提供方法と危険防止について理解する。
- (4) 小児期に特有な疾患を有する患者の看護を展開できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	プレパレーションとディストラクション 虐待早期発見・危険防止 チャイルド・ビジョン	講義	
第2回	プレパレーションとディストラクション (課題作品の発表・ロールプレイング)	演習	
第3回	プレパレーションとディストラクション (課題作品の発表・ロールプレイング) KYTトレーニング	演習	
第4回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第5回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第6回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第7回	事例による看護過程の展開	グループワーク	
第8回	定期試験 (60 分)・まとめ (30 分 試験後に)・	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (30 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (10 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学[2] 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学[1] 医学書院
参考図書	小児の発達と看護 小児看護学 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 ナーシング・グラフィカ
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護学概論	外部講師	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

母性看護の現況や動向を知り、機能と役割を理解することにより母性看護活動に必要な基礎的知識を修得する。

◇到達目標

1. 母性看護の基盤となる概念が理解できる。
2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状が理解できる。
3. 女性のライフステージ各期における健康と健康問題について理解できる。
4. リプロダクティブヘルス・ライツの概念が理解できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	母性とは①	講 義	
第2回	母性とは②	講 義	
第3回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状①	講 義	
第4回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状②	講 義	
第5回	母子を取り巻く環境①	グループワーク	
第6回	母子を取り巻く環境②	グループワーク	
第7回	グループ発表①	ディスカッション	
第8回	グループ発表②	ディスカッション	
第9回	母性看護の対象理解	講 義	
第10回	女性のライフステージ各期における看護（思春期）	講 義	
第11回	女性のライフステージ各期における看護（成熟期）	講 義	
第12回	女性のライフステージ各期における看護（更年期～老年期）	講 義	
第13回	母性看護に必要な看護技術	講 義	
第14回	まとめ	講 義	
第15回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（グループワーク %）
------	--

教科書	系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院
参考図書	
留意事項	事前学習： 講義の前に必要な場合は提示します

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論Ⅰ-1	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

【外部講師】 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の特徴を理解し、母子とその家族が正常な経過をたどれるように援助を行うための基本的な能力を養う 【外部講師】 異常妊娠についての病態や看護のポイントについて学習する。
--

◇到達目標

【外部講師】 1) 妊娠期の母体の変化と心理・社会的特性、胎児の成長発達、マイナートラブルやハイリスク妊娠および異常について理解できる。 2) 妊娠期の看護について理解できる。 3) 妊娠期の異常時の看護について理解できる。 4) 母子関係確立および家族役割構築のための看護について理解できる。 【外部講師】 (1) 妊娠・分娩・産褥期に生ずる母体の生理的变化と特徴、胎児期の成長・発達および新生児期における胎外生活適応過程において生ずる生理的变化を理解する。 (2) 周産期における母性およびその家族の心理社会的側面を理解する。 (3) 周産期における正常からの逸脱に対する看護を理解する。 (4) 母性看護に特有の看護技術を習得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	妊娠期の身体的特性	講義	
第2回	妊娠期の心理・社会的特性	講義	
第3回	妊婦と胎児のアセスメント	講義	
第4回	妊婦と家族の看護 (1) 食生活	講義	
第5回	妊婦と家族の家族 (2) マイナートラブル	講義	
第6回	妊婦への保健指導 グループワーク	グループワーク	
第7回	妊婦への保健指導 グループワーク 発表①	ディスカッション	
第8回	妊婦への保健指導 グループワーク 発表②	ディスカッション	
第9回	妊娠の異常と看護	講義	
第10回	終講試験【60分】+まとめ【30分】	試験+まとめ	
第1回	ハイリスク妊娠	講義	
第2回	妊婦の異常 妊婦と胎児にみられる異常	講義	
第3回	産婦の異常 産婦にみられる異常	講義	
第4回	褥婦の異常 褥婦にみられる異常	講義	
第5回	新生児の異常 新生児にみられる異常	講義	

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院
参考図書	

令和5年度 看護学科 シラバス

留意事項	事前学習【外部講師】講義の前に必要な場合は掲示します。 【外部講師】妊娠の成立、妊娠中の母児の生理について基礎知識を身につけておくこと
------	--

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論Ⅰ-2 (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉 由美・矢追 裕子	2	1	後期	必修

◇講義概要

教育目的	分娩期・産褥期の産婦・褥婦・および新生児の社会的、心理的、身体的変化への適応を理解するとともに、産婦のセルフケア能力をアセスメントし、母子と家族へ健康障害の予防や健康増進を促す看護援助を学ぶ。
授業概要	妊産褥婦・新生児期の特徴を理解し、母子を取り巻く環境をふまえた、看護の役割を習得する。

◇到達目標

1、分娩期・産褥期の産婦の社会的、心理的、身体的変化とそれらへの適応を理解する。
2、分娩期・産褥期の産婦のセルフケアや健康障害の予防、健康増進を促す看護援助を理解する。
3、分娩期・産褥期の母子の家族への看護援助についても理解できる。
4、新生児の子宮外生活への適応と看護援助について理解できる。
5、産婦・褥婦の親役割の習得過程及び親子関係形成への看護援助について理解できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	分娩期における看護（分娩の要素分娩経過 CTG の読み方 回旋）	講 義	稲葉 由美
第2回	分娩期における看護（分娩経過のアセスメント）	講 義	稲葉 由美
第3回	分娩期における看護（産婦と家族への援助・分娩時の看護の実際）	講 義	稲葉 由美
第4回	分娩の異常と看護（陣痛の異常 産道の異常 回旋異常 帝王切開胎児機能不全） 分娩時異常出血（子宮破裂 頸管裂傷 弛緩出血 子宮内反）	講 義	稲葉 由美
第5回	出生直後の新生児の看護・新生児蘇生法	講 義	矢追 裕子
第6回	産褥期における看護・早期新生児期における看護①	G W	矢追 裕子
第7回	産褥期における看護・早期新生児期における看護②	G W	矢追 裕子
第8回	産褥期における看護・早期新生児期における看護③	G W	矢追 裕子
第9回	帝王切開術後の褥婦の看護・帝王切開術で出生した児の看護	講 義	矢追 裕子
第10回	新生児の異常と看護（高ビリルビン血症・新生児一過性多呼吸・呼吸窮迫症候群・ビタミンK欠乏症・低血糖・低出生体重児）	講 義	矢追 裕子
第11回	産褥期の異常と看護（子宮復古不全・産褥熱・乳腺炎・腎盂腎炎）	講 義	矢追 裕子
第12回	育児技術 母乳育児支援	講義・演習	稲葉 由美
第13回	育児技術 母乳育児支援	講義・演習	稲葉 由美
第14回	精神障害合併妊婦と家族の看護	講 義	稲葉 由美
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験+まとめ	稲葉 由美 矢追 裕子

令和 5 年度 看護学科 シラバス

評価方法	■定期試験（ 90 %） □実技試験（ %） □演習評価（ 10 %）
	■小テスト（ %） ■レポート（ %） □その他（%）

教科書	系統看護学講座 母性看護学各論 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護技術
参考図書	メディックメディア 病気が見える vol10 産科 医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術（第 3 版）
留意事項	事前学習 教科書を読んでおく。家族に自分が生まれたときの話を聞いてくる。自分の母子健康手帳、出産された方は子どもさんの母子健康手帳を探して見ておく。自分の臍帯の箱もあれば外書き及び中身を見ておく。 事前学習（第 5 回～第 11 回） 別途提示する課題について該当部分の教科書を読み、第 5 回講義までにまとめて第 5 回講義で提出すること（PC 可・A4 11 ポイント）

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
母性看護方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	稲葉 由美	2	1	後期	必修

◇講義概要

周産期にある母体の生理的变化と胎児・新生児の成長・発達や胎外生活適応への過程に関する理解を踏まえ、母体及び胎児・新生児のより良い健康を保持・強化するためのアセスメントを行って看護過程を展開する。演習を通して周産期看護に必要な看護技術を習得する。

◇到達目標

- (1) 妊婦・産婦・褥婦および新生児の各期の経過を理解できる
- (2) ウェルネスの視点で、母子とその家族のセルフケア能力のアセスメントを行い、
正常な経過をたどれるように看護を展開できる。
- (3) 周産期にある対象に援助を実施するための基本的な能力を養う。
(モデル人形を用いて沐浴ができる。)

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護過程① 母性アセスメント用紙の書き方 情報収集	グループワーク	
第2回	看護過程② 看護問題 事例の情報収集 看護過程の展開 アセスメント用紙 関連図 看護問題 看護計画を立案しグループでまとめる。	グループワーク	
第3回	妊産褥婦・新生児のバイタルサイン測定と新生児の沐浴	講義と演習	
第4回	沐浴演習 (妊婦・褥婦・新生児の健康診査・バイタルサイン測定)	演習	
第5回	看護過程③ 発表。	グループワーク	
第6回	看護過程④ 発表。	評価	
第7回	沐浴技術テスト	演習テスト	
第8回	沐浴技術テスト	演習テスト	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ■ 実技試験 (40 %) ■ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ■ レポート (40 %) □ その他 (%)
------	---

教科書	医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 ナーシンググラフィカ 母性看護技術
参考図書	医学書院 ウェルネスからみた 母性看護過程 医学書院 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 メディックメディア 病気が見える vol10 産科
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護学概論	外部講師	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

精神保健看護をとりまく動向を踏まえ、精神保健看護の対象となる人々の理解と援助に必要な理論の修得を目指す。

◇到達目標

- (1) 心の健康とその考え方を理解する。
- (2) 歴史や社会の動向を踏まえ精神保健福祉と精神看護の理念を理解する。
- (3) 精神分析理論から心の問題を捉え、適応・危機・ストレス理論を理解する。
- (4) 人々のライフサイクルを通して発達課題や社会・生活環境における問題を理解する。
- (5) 精神保健医療福祉をめぐる法制度からの患者支援の方法を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	科目オリエンテーション 精神看護の目的と意義・精神看護の役割を理解する (DVD 視聴)	講義・DVD	
第2回	精神看護の役割を理解する (DVD 視聴)	講義・DVD	
第3回	人間の心の諸活動、精神力動論①	講義・演習	
第4回	精神力動論②、エリクソンの漸成的発達図式について	講義・演習	
第5回	対象関係論、自己心理学、ほか心の動きを理解する諸理論	講義・演習	
第6回	ライフサイクルと心の発達 エリクソンの漸成的発達図式について	講義・演習	
第7回	ストレス・危機理論の概要 具体的な危機介入の方法について	講義・演習	
第8回	家族と精神保健 樹形図の書き方 家族システム論について	講義・演習	
第9回	集団力動論 クラスでグループダイナミクスを体感する	講義・演習	
第10回	精神保健福祉医療の沿革・歴史	講義・演習	
第11回	精神医療・看護と倫理 倫理的問題についての事例検討を含む	講義・演習	
第12回	精神保健と関係法規 精神保健福祉法と障害者総合支援法を中心に	講義・演習	
第13回	地域精神医療保健 地域で生活する精神障害者の実際	講義 DVD 学習	
第14回	リエゾン精神看護とナースのメンタルヘルス	講義・演習	
第15回	終講試験【60分】・まとめ【30分】	試験・講義	

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
教科書	系統看護学講座 精神看護の基礎 (精神看護学①)) 医学書院
参考図書	なし
留意事項	なし

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護方法論Ⅰ－Ⅰ	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

精神の健康に障がいのある人および家族の理解と援助について、その理論と具体的方法を習得する。

◇到達目標

- (1) 精神に健康の障がいをもつ対象者の治療環境を理解する。
- (2) 精神に健康の障がいをもつ対象者の理解と関わり方を理解する。
- (3) 精神保健医療福祉をめぐる法制度からの患者支援の方法を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神看護学の基本 精神障害者の現状	講義	
第2回	精神の健康と不健康 予防と回復のメカニズム	講義	
第3回	心のはたらきとしくみ 人格形成	講義	
第4回	学説と精神療法の基本	講義	
第5回	人間関係についてのシステム論	講義	
第6回	精神看護における「症状のとらえ方」を理解	講義	
第7回	精神機能の障害と精神症状	講義	
第8回	精神障害の診断と分類	講義	
第9回	精神科における治療と看護①	講義	
第10回	精神科における治療と看護②	講義	
第11回	精神科における治療と看護③	講義	
第12回	精神障害と治療の歴史	講義	
第13回	精神障害と社会学	講義	
第14回	精神障害と法制度	講義	
第15回	まとめ (30 分)・終講試験 (60 分)	講義・試験	

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
教科書	精神看護の基礎 (精神看護学①)、精神看護の展開 (精神看護学②) 医学書院
参考図書	メンタルステイタスイグザミネーション1・2 武藤教志 著 精神看護出版 看護のためのフレームワーク 武藤教志 著 精神看護出版 コンコーダンス 安保寛明 武藤教志 著 医学書院 全人的視点にもとづく精神看護過程 白石壽美子・武政奈保子 編 医歯薬出版
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護方法論 1－2	外部講師	2	1	後期	必修

◇講義概要

精神の健康に障がいのある人および家族の理解と援助について、その理論と具体的方法を修得する。 1. 精神障がいや精神疾患をもつ人のかかわりのなかで理解するとともに、生活を支える社会制度について理解を深める。 2. 精神看護を展開するために必要な基礎的知識を学び、精神看護の基本概念を理解する。
--

◇到達目標

(1) 精神障がいや精神疾患をもつ人をケアの人間関係のなかで理解できる。 (2) 精神障がいや精神疾患をもつ人の治療的環境と看護の役割について理解できる。 (3) 地域生活を支える社会制度・精神保健・精神看護について理解できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	精神障害をもつ人のケアの基本的な方法	講 義	
第2回	人間関係をアセスメント プロセスレコードの活用	講 義	
第3回	患者－ 看護師関係でおきる現象のしくみと対処方法	講 義	
第4回	患者にとっての回復（リカバリー）と支援	講 義	
第5回	地域におけるケアの方法と支援の実践	講 義	
第6回	学校・職場におけるメンタルヘルス	講 義	
第7回	入院形態による精神科への入院の仕方	講 義	
第8回	精神科病院での看護の課題と役割	講 義	
第9回	退院に向けての支援と実践	講 義	
第10回	精神科における身体ケアの実践	講 義	
第11回	身体合併症とその看護	講 義	
第12回	リスクマネジメント 緊急対応	講 義	
第13回	リエゾン看護師の役割と看護 災害時の心のケア	講 義	
第14回	看護師における感情労働とメンタルヘルス	講 義	
第15回	まとめ(30分)・終講試験(60分)	試験・まとめ	

評価方法	☒ 定期試験（ 100%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	精神看護の基礎（精神看護学①）、精神看護の展開（精神看護学②） 医学書院
参考図書	メンタルステイタスイグザミネーション1・2 武藤教志 著 精神看護出版 看護のためのフレームワーク 武藤教志 著 精神看護出版 コンコーダンス 安保寛明 武藤教志 著 医学書院 全人的視点にもとづく精神看護過程 白石壽美子・武政奈保子 編 医師薬出版
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神看護方法論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	水田 あき	2	1	後期	必修

◇講義概要

精神の健康に障がいのある人に対する看護過程の展開方法を学習する。
精神科看護技術の実践を学習する。

◇到達目標

主要な精神疾患・症状を有する患者の事例を通して、対象の健康レベルをアセスメントし必要な看護ケアの方法を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護視点過程 看護過程記録－相互作用を記録し振り返る方法 プロセスコードの活用 コミュニケーションスキル	講義	
第2回	ゴートンのアセスメントの枠組み 事例を通して情報の整理および情報の解釈により 健康逸脱の状況を見出す過程を学ぶ	講義	
第3回	アセスメント 情報を解釈する－アセスメントの視点 精神看護における看護過程	講義	
第4回	アセスメント結果のまとめ 精神看護のアセスメント	意見交換	
第5回	アセスメント結果の統合 看護問題を推論するまでの過程と方法	意見交換	
第6回	看護問題の抽出 看護計画の立案	意見交換	
第7回	看護過程まとめ 看護の実施と評価 SOAP 記録	意見交換	
第8回	終講試験 (45分)	試験	

評価方法	☒ 定期試験 (50 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (50 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	江川隆子 監訳 「ゴードン博士の看護診断アセスメント指針」 照林社 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院
参考図書	全体的視点にもとづく精神看護過程 白石喜美子 武政 奈保子 医歯薬出版会社
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医療安全管理	外部講師	2	1	後期	必修

◇講義概要

医療・看護行為、医療機器、医薬品、患者に存在する危険を認識する能力を養い、医療安全の観点から「してはならないこと」と「すべきことを」またその根拠を学ぶことで医療安全対策の基礎的知識を習得する。

◇到達目標

- (1) あらゆる場面・人・物に潜む危険について考えることができる。
- (2) 医療安全の視点から、看護基礎技術の根拠・理由を理解することができる。
- (3) 医療安全におけるコミュニケーションの重要性を理解することができる。
- (4) 医療安全対策の組織的な取り組みについて知ることができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	医療安全を学ぶ意義 医療事故と看護業務	講義	
第2回	診療の補助の事故防止Ⅰ（業務の特性からみる） ①注射業務と自己防止	講義	
第3回	②注射業務に用いる機器での事故防止	講義	
第4回	③輸血業務と事故防止	講義	
第5回	④内服与薬業務と事故防止 ⑤経管栄養業務と事故防止	講義	
第6回	診療の補助の事故防止Ⅱ チューブ管理と事故防止	講義	
第7回	療養上の世話の事故防止 ①転倒・転落事故防止	講義	
第8回	②摂食中の窒息・嚥下事故防止 ③異食事故防止 ③入浴中の事故防止	講義	
第9回	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	講義	
第10回	事故防止のためのコミュニケーション	講義	
第11回	看護師の労働安全（職業感染・抗がん剤・放射線被曝 他）	講義	
第12回	組織としての医療安全対策 事故報告とヒヤリ・ハット報告	講義	
第13回	システムとしての事故防止 重大事故発生時の対応	講義	
第14回	医療安全対策の国内外の潮流 医療安全教育	講義	
第15回	まとめ 終講試験	講義	

評価方法	☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院
参考図書	ナーシンググラフィカ 医療安全 メディカ出版 医療安全ワークブック 川村治子 著 医学書院
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
チーム医療論	坂本 洋子	2	1	前期	必修

◇講義概要

保健医療福祉分野におけるチームアプローチの必要性を理解し、各専門職にお役割や機能の特徴を知り、理解を深めるとともに、連携の在り方や看護職者の役割・責任に対する考え方を明確にすることを目的とする。

◇到達目標

1. 保健医療福祉分野の各専門職者の役割や機能の特徴を説明できる。
2. チームアプローチの必要性を記述することができる。
3. チーム医療における看護職者の役割や責任を自分の言葉で説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	チーム医療の必要性とその発展	講義	4/27
第2回	チームアプローチにおける助産師の役割と機能	講義	5/11
第3回	チームアプローチにおける保健師の役割と機能	講義	5/18
第4回	チームアプローチにおける看護師の役割と機能	講義	5/25
第5回	チームアプローチにおける医師の役割と機能	講義	6/1
第6回	チームアプローチにおける薬剤師の役割と機能	講義	6/8
第7回	チームアプローチにおける言語聴覚士の役割と機能	講義	6/15
第8回	チームアプローチにおける作業療法士の役割と機能	講義	6/22
第9回	チームアプローチにおける介護福祉士の役割と機能	講義	7/6
第10回	様々な医療の場における看護師の役割と機能を考える①	講義・演習	7/13
第11回	事例に基づくチームアプローチ①	演習	7/19
第12回	事例に基づくチームアプローチ②	演習	7/19
第13回	チームアプローチにおける理学療法士の役割と機能	講義	7/20
第14回	様々な医療の場における看護師の役割と機能を考える②	演習	7/27
第15回	終講試験・まとめ	演習	8/3

評価方法	☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	必要に応じて資料を配布します。
参考図書	
留意事項	演習評価はグループワークおよび発表の時間に欠席すると点数は0点とします。 事前に次の講義内容について確認し、配布資料に必要事項を記入する (30分) 授業後に配布資料の課題をまとめる (30分)

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
国際看護	外部講師	2	1	前期	必修

◇講義概要

- (1) 国際的な視点から保健・看護の現状を学び、異文化を考慮した看護について理解する。
 (2) 看護の専門職の役割として、在日外国人の健康上の問題点と課題について理解する。

◇到達目標

1. 国際的な視点から保健・看護の現状を学び、必要性を述べることができる。
2. 国際看護の実践を知り、必要な知識・技能・能力は何かを述べることができる。
3. 在日外国人の健康問題とその支援について述べることができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当	備考
第1回	国際看護とは 世界の健康問題の現状	講義 GW		
第2回	グローバルヘルスの歴史的変遷 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	講義 GW		
第3回	諸外国における地域看護	講義 GW		
第4回	南アジアの国バングラディッシュについて ・気候、風土、宗教について知る ・実際に取り組まれていることを知る	オンライン 講義 GW		
第5回	バングラディッシュにおける活動の実際 ・異国での活動における行動と思考の違い（魚釣りの例） ・相手に理解してもらうために工夫したこと	オンライン 講義		
第6回	国際協力の課題 人間の安全保障	講義 GW		
第7回	在日外国人の健康問題とその支援 我が国に在留する外国人の現状 共に働き暮らす時代へ	講義 GW		
第8回	終講試験（45分）	試験		

評価方法	☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 小テスト（ %）	☐ 実技試験（ %） ☒ レポート（ 20 %）	☐ 演習評価（ %） ☐ その他（ %）
------	--	--	---

教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院 国際化と社会 メディカ出版
参考図書	「無医村のやさしい人々」「思いきってとび出せば 青年海外協力隊14人の手記」
留意事項	【外部講師】 レポート提出（授業期間中、宿題として1～2回予定） 【外部講師】 各授業後振り返りシートを記入

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
災害看護	外部講師	2	1	後期	必修

◇講義概要

災害医療および災害支援に際して医療従事者に必要な基礎的知識を習得する。

◇到達目標

①災害及び災害色湯の基礎を学ぶ ②災害各期における医療・看護のニーズの特徴と支援の在り方を学ぶ ③災害が人々に及ぼす社会・経済的および心理的影響と支援の在り方を学ぶ
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	1) 災害看護とは：災害看護の定義災害と倫理	講義	
第2回	2) 災害医療に関する国の再作と法律；	講義	
第3回	3) 災害の種類と災害サイクル；災害サイクル；災害の種類と被害・疾病の種類	講義	
第4回	4) 災害の種類と災害サイクル；災害関連死・災害サイクル	講義	
第5回	5) 災害時に必要な医療・看護技術；体系的対応の基本、トリアージ、応急処置・治療、移送・搬送	講義	
第6回	6) トリアージ実技	演習	
第7回	7) 災害初期から中長期における看護活動；初動時、医療救護所	講義	
第8回	8) 危機管理；減災防災マネジメント	講義	
第9回	9) 災害医療と国際看護；国際看護とは 日本における国際看護 海外における災害看護と国際看護活動	講義	
第10回	10) 災害初期から中長期における看護活動； 避難所、仮設住宅、自宅避難者、復興期	講義	
第11回	11) 配慮を必要とする人への支援と看護	講義	
第12回	12) 被災者と支援者の心理理解と援助	実技	
第13回	13) 災害看護 演習	GW	
第14回	14) 災害看護 演習	GW	
第15回	15) 終講試験	試験	

評価方法	☐ 定期期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
教科書	ナースিং・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版
参考図書	
留意事項	

令和5年度 看護学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
看護管理	外部講師	2	1	後期	必修 選択

◇講義概要

看護のマネジメントは、ヒト・モノ・カネ・情報などの資源を効果的・効率的・安全に活用して理想とする看護を提供するプロセスである。また看護は、医療・福祉の現場において24時間を通じて、健康に障害を持った対象者に適切な看護が提供され、医療チームの中で他職種との協働で業務を行う。 看護職者が、組織の一員として、質の高い看護を提供するために必要となる「仕組み」について理解するとともに複数の対象者のマネジメントの方法を学び、総合的な知識をさらに看護管理へと発展させる統合技術を学ぶ。

◇到達目標

1. 看護職者が組織の一員としての自覚を持ち、質の高い看護を提供するために必要となる「仕組み」について説明ができ、看護の直面する問題と課題について理解する。 2. 医療チームの各役割が理解でき、看護管理者が担う役割や原理・原則が説明できる。 3. 看護を取り巻く諸制度を理解し、看護サービスのマネジメント能力を身につける。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	看護管理の基本となるもの ①看護管理とは何か ②看護管理の基礎となる知識 ③看護管理のプロセス ④他職種との連携・協働	講義	
第2回	看護師の仕事とその管理 ①組織とは・組織目標 ②看護と経営 ③ヒトを育て生かす	講義 グループワーク	
第3回	看護の仕事とその管理 ①資源とその活用 ②看護の提供システム	講義 グループワーク	
第4回	看護の質向上 ①看護管理と倫理 ②医療・看護の質評価	講義	
第5回	看護管理に求められる能力 ①セルフマネジメントの方法 ②対人コミュニケーションスキル	講義	
第6回	看護管理に求められる能力 ①組織におけるリーダーシップとマネジメント ②管理能力の基盤となる理論	講義	
第7回	看護職とキャリア ①社会人になる ②生涯学習 ③看護職に関する法律 ④看護職のキャリア	講義	
第8回	終講試験(45分)	試験	

評価方法	☒ 定期試験 (80%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版 第4版第4刷
参考図書	
留意事項	問題意識を持って自主的に学ぶ姿勢を期待する。